三重県埋蔵文化財年報12

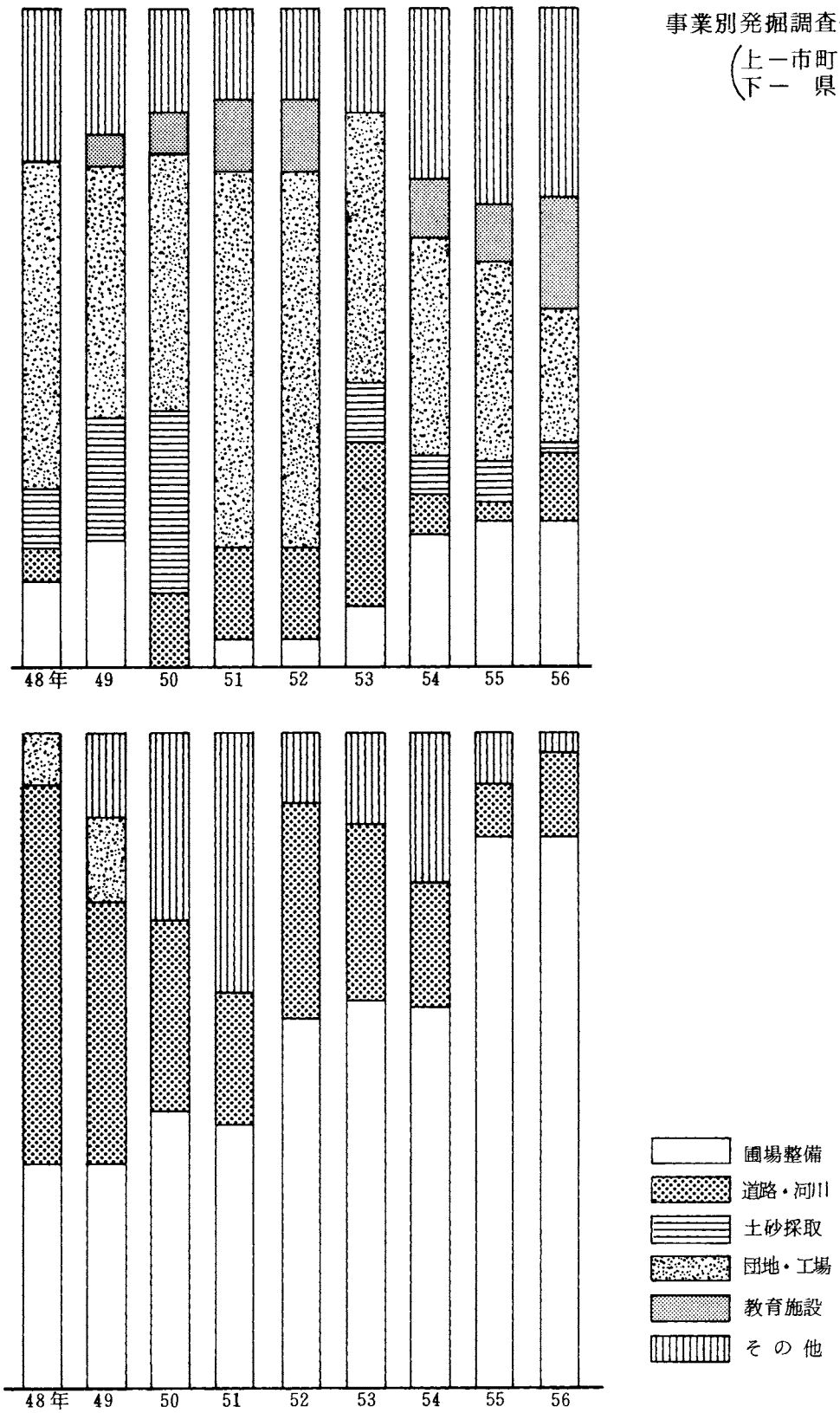
昭 和 56 年 度

1982.3

三 重 県 教 育 委 員 会

事業別発掘調査件数比率

（上ー市町村
下ー　県）



例　　言

1　この年報は、昭和56年度における県内の埋蔵文化財保護行政と調査の概要をまとめたものである。

2　Ⅲの緊急調査の現状のうち、2・緊急発掘調査の概要は、それぞれの発掘調査担当者による。

3　本書の編集は、文化課文化財係埋蔵文化財担当係において行った。

目　　次

Ⅰ　土地利用と埋蔵文化財 …… 1

1.　市町村総合計画（案）等の事前審査 …… 1

2.　民間企業の開発計画の事前協議 …… 1

3.　国の機関等の開発計画の事前協議 …… 4

Ⅱ　埋蔵文化財保護体制の強化 …… 11

1.　発掘調査事務所 …… 11

2.　三重県文化財調査員の設置 …… 13

3.　文化財パトロール …… 17

4.　埋蔵文化財発掘技術者研修 …… 22

5.　埋蔵文化財担当者の研修 …… 27

Ⅲ　緊急調査の現状 …… 29

1.　大規模開発事業地域遺跡分布調査 …… 29

2.　緊急発掘調査 …… 31

Ⅳ　調査結果の公開 …… 71

1.　三重県埋蔵文化財展の開催 …… 71

2.　発掘遺跡現地説明会の開催 …… 73

3.　保管遺物等の貸出し、写真等の掲載許可 …… 74

（付１）　埋蔵文化財関係通知 …… 76

（付２）　三重県埋蔵文化財認定通知物件 …… 79

（付３）　埋蔵文化財担当業務 …… 80

Ⅰ　土地利用と埋蔵文化財

1.　市町村総合計画（案）等の事前審査

市町村総合計画及び広域市町村圏計画の策定に際して、埋蔵文化財保護に特に配慮するよう県総務部地方課に指導方を依頼している。その際留意すべき事項は次のとおりである。

基本構想において、(1)　文化財保護の項目の有無

(2)　埋蔵文化財包蔵地一覧表等による現状把握の有無

(3)　遺跡の周知徹底策の明記の有無

2.　民間企業の開発計画の事前協議

民間企業による各種土地開発事業と埋蔵文化財の保護については、関係諸法令、要項等によって方針が定められている。具体的取り扱いとしては、「文化財保護の指導要項」により関係機関、事業者に協力を求めている。その際の現地分布調査は、当該市町村教育委員会が関係教育事務所の指導をうけて実施し、その調査結果の（写）を県教育委員会に報告することとしている。

民間企業等の開発計画地域内の遺跡分布調査一覧

種　別	事業者	面積(㎡)	事業地	備考
NKF松本団地	日本鋼管不動産㈱	278,300	四日市市川島町字大谷147-2 〃　大字松本字柿ヶ原	分布調査
宅地造成	三重県労働者住宅生活協同組合	251421	久居市北口町丸田	〃
事務所建設	三重県建設業協会一志支部（社）	2048.63	久居市北口町字野中 36-1-2	試堀調査
東青山駅周辺整備	近鉄不動産㈱		白山町東青山	分布調査
工場建設	吉田産業㈱	2568	多気郡明和町大字竹川字野口 48-1　47-1　46-1	〃
〃	奥山水産㈱	193898	〃　〃　大字葉村	〃
〃	ダイヤモンドスーパーマツダ㈱	1378	〃　〃　大字北野 3594　3593	〃
砂利採取	右京砂利㈱	27,013	〃　〃　大字浜田	〃

種別	事業者	面積(㎡)	事業地	備考
砂利採取	日徳興産㈱	2900	多気郡明和町大字金剛坂字辰ノ口	分布調査
土取り	世古口建設㈲	3,173	明和町大字地村字戸峯238−1	〃
砂利採取	大西砂利		〃 〃 竹川字神宮821〜830，831−1.2，832	〃
宅地開発	高富士建設㈱	4,000	明和町大字前野776，794〜797，776−1	〃 協定書
工業団地造成	三重県土地開発公社	81,885	明和町大字平尾字北高曽，南高曽，野田	協定書
工場建設	三ツ知㈱	16,559	飯南郡飯南町大字向粥見字川の上159の3	試掘調査
砂利採取	砂利久	8,573	度会郡御薗村大字五中島字溝口	分布調査 誓約書
防火水槽新設工事	伊勢市消防本部	64	伊勢市西豊浜1779	試掘調査
耐震性100m級貯水槽	〃	100	伊勢市神田久志本町1436−1	分布調査
宅地造成	近畿総合開発㈱	887.04	〃 中之町西側182−1	〃
あさま児童センター あさま大型作業場	伊勢市土地開発公社	1,932	〃 朝熊町	〃
改良住宅	伊勢市長	4,107	〃 黒瀬町	〃
倉庫・事務所	勤労者百貨店㈲	2,002	伊勢市竹ケ鼻町大字南新田	試掘調査
土取り	森組㈱	3,117	〃 前山大字室ケ谷1310−2	〃
貸店舗	長岡事務所	1,065	〃 小木町大字曽弥579−1	分布調査
宅地造成	ユタカ土地	2318.172	〃 一之木町5丁目907，912，1911	〃
宅地造成	東明商事㈱	1,069.31	〃 古市町大字亀山366，366−1，366−6	〃 誓約書
グランド造成工事	皇学館大学	22,722.5	伊勢市神田久志本町大字金塚	〃
山土採取	砂利久㈱	13,686	〃 佐八町大字奥広1281	〃
〃	キタムラ産業㈱	38,325.57	伊勢市岡本2丁目509	〃
小規模排水対策特別事業	有滝土地改良区	109,000	伊勢市有滝町大字里前	試掘調査
住宅・倉庫	個人	1255.11	〃 村松町大字大防城山	分布調査
〃	個人	314	〃 大湊町字稲荷裏	〃
中古車展示場造成工事	パールモーター㈱	1014	〃 竹ケ鼻町大字船倉258の1	分布調査 誓約書
宅地造成	志摩殖産㈲	4948.11	伊勢市藤里町大字海老屋田	〃
〃	東明商事㈱	2428.76	〃 桜木町大字正亀田	〃

種別	事業者	面積(㎡)	事業地	備考
工場建設	南勢電機㈱	3,306.11	伊勢市西豊浜町字水附655−12	分布調査 誓約書
住宅建設	個人	213	伊勢市磯町大字つう田	分布調査 工事立会
宅地開発	丸紅名古屋支社㈱	140,161.23	〃 藤里町字長尾谷	発掘調査
敷地造成工事	勢及国屋㈱	1,843.23	〃 竹ケ鼻町大字南新田269	分布調査
個人住宅	個人	466	〃 有滝町字茶臼塚	〃 工事立金
駐車場	個人	2075	伊勢市小木町大字箕曲	分布調査 誓約書
貸倉庫	神和商事㈱	427	伊勢市磯町大字野良	〃
宅地造成	太陽企画㈱	1,687.83	伊勢市神社町字鷲ケ浜	分布調査
〃	明光産業㈱	9910	伊勢市前山町大字亀谷部	〃
〃	紀洋物産㈲	2,402	伊勢市神久6大字里松 719. 720	〃
桃山団地	名張不動産㈱	331,000	名張市下比奈知町大字山竜東谷	〃
未定	日本開発工業㈱	495,855	阿山町大字川合字又木田	〃
宅地造成	大倉建設㈱	926,883	名賀郡青山町 阿保 別府 柏尾	〃

3. 国の機関等の開発計画の事前協議

国の機関、地方公共団体等が周知の埋蔵文化財包蔵地において、事業を実施する場合には、文化財保護法第５７条の３の規定により、事業計画の策定にあたって、あらかじめ文化庁長官に通知することになっている。文化課では、この趣旨を徹底させるため、年度当初、開発関係行政機関に対し、事業計画の照会をするとともに、事業地内埋蔵文化財の有無を確認している。又、埋蔵文化財が事業地内に存在する場合には、その取り扱いについて当課と協議するよう申し入れをしている。今年度、国の機関等から通知（法５７条の３）があったものは１件、県機関１９件、市町村機関１２件、公団１件であった。

国の機関等による文化庁協議（法５７条の３による通知）

遺跡名	事業名	所在地	面積(㎡)	通知者	備考
庄村遺跡外	近畿自動車道伊勢線	一志郡一志町～多気郡勢和村	104,000	建設省	協議中
大垣内古墳	赤目保育所改築	名張市赤目町壇	866	名張市	調査
山ノ下B古墳群	県営広域営農団地基幹農道整備事業	安芸郡安濃町戸島	1,120	県	調査
上野城	本城山公園整備事業	安芸郡河芸町上野	2,000	河芸町	試掘
大谷広遺跡	大三小学校改築	一志郡白山町二本木	9,903	白山町	試掘
三谷遺跡	県営農林漁業用揮発油税身替農道整備事業	阿山郡大山田村広瀬	1,860	県	調査
西蔵寺跡外	県営農村基盤総合整備パイロット事業	松阪市小阿坂町向川	20,000	県	試掘
老ノ木遺跡	県営圃場整備事業	上野市猪田	4,000	県	〃
山出遺跡	〃	阿山郡大山田村真泥	10,000	県	調査
中新田遺跡	〃	伊勢市津村町中新田	110,000	県	〃
高岡遺跡	〃	南牟婁郡紀宝町高岡	700	県	〃
小金塚遺跡	〃	員弁郡東員町山田	40,000	県	〃
市塚遺跡外	〃	三重郡菰野町千草	13,200	県	試掘
浄土寺南遺跡外	〃	安芸郡安濃町浄土寺	146,300	県	調査
堀田遺跡外	〃	一志郡嬉野町天華寺	52,000	県	〃

遺跡名	事業名	所在地	面積(㎡)	通知者	備考
横山遺跡外	県営圃場整備事業	上野市蓮池	15,000	県	調査
三谷遺跡	〃	阿山郡大山田村広瀬	40,000	県	試掘
野中城外	〃	阿山郡大山田村下阿波	10,000	県	調査
前田古墳外	県営一般農道整備事業	安芸郡安濃町中川	2,649	県	57年度調査
長尾古墳	県立高校建設	鈴鹿市稲生町	100	市	調査
殿垣外遺跡	防火水槽建設	伊勢市西豊浜町殿垣外	64	市	試掘
南小山廃寺	町道多度御衣野線	桑名郡多度町小山	96	町	試掘
荘司端遺跡外	小規模排水対策特別事業	伊勢市有滝町荘司端	91,700	市	〃
下村遺跡	県営広域営農団地基幹農道整備事業	久居市榊原町	1,548	県	〃
片野遺跡	県道丹生寺一志線	一志郡一志町片野	4,396	県	57年度調査
田丸城	町舎建設関連	度会郡玉城町田丸	10	町	調査
浄土古墳群	県道的矢島羽線	志摩郡磯部町的矢	9,729	県	57年度調査
天神遺跡	県道安乗港線	志摩郡阿児町国府	9,595	県	〃
城坂古墳	町道栗加戸島線	安芸郡安濃町戸島	230	町	〃
城坂館	〃	安芸郡安濃町戸島	666	町	〃
発シB遺跡	修正小学校移転改築	多気郡明和町有爾中	13,000	町	〃
殿垣外遺跡	豊浜西小学校増築	伊勢市西豊浜町殿垣外	460	市	試掘

(1) 農業基盤整備事業等

農業基盤整備事業には、県営圃場整備事業をはじめ、団体営圃場整備事業その他があって、近年、県営圃場整備事業地区内に埋蔵文化財が含まれる事例が増加している。

今年度も整備面積699*ha*の中で、分布調査の結果47件の埋蔵文化財が確認され、その面積が805,380㎡におよぶことが判明し、耕地第2課、各耕地事務所及び土地改良区と協議を重ね、出来るだけ保存につとめた結果、14件、約16,700㎡の遺跡については、削平部分、水路部分についてやむを得ず調

査を実施した。

一方、市町村教育委員会が調査を実施した遺跡は9件である。

事業名	地区	事業面積	遺跡名	所在地	遺跡面積	取り扱い
県営圃場整備	大安東部	ha 44			m²	
	大安西部	45	上垣内遺跡	員弁郡大安町月樋	2,000	試掘調査、工事実施
	員弁	23	御薗B遺跡	〃 員弁町御薗	3,000	工事立会
	東員	51	寺垣内遺跡	〃 東員町山田	400	〃
			瀬古泉遺跡	〃 〃 瀬古泉	4,000	試掘調査、工事実施
			野田遺跡	〃 〃 〃	1,000	〃 〃
			小金塚遺跡	〃 〃 山田	40,000	水路部分調査、他は保存
	ちくさ	30	葛原A遺跡	三重郡菰野町	700	工事立会
			〃 B遺跡	〃 〃	2,000	〃
			市塚遺跡	〃 〃 福松	8,000	試掘調査、工事実施
			南の脇遺跡	〃 〃 竹成	2,500	工事立会
	八風	20	首塚遺跡	〃 〃	4,000	試掘調査、工事実施
	鈴鹿第二	55	南長太遺跡	鈴鹿市南長太町	10,000	計画変更、保存
	安塚	12	—	—	—	
	深溝	26	—	—	—	
	安濃川右岸	56	生水東方遺跡	安芸郡安濃町	20,000	試掘調査、工事立会
			岡南東方遺跡	〃 〃	1,300	〃
			浄土寺南遺跡	〃 〃	120,000	水路削平部分調査、他は保存
			北神山遺跡	〃 〃	20,000	試掘調査、工事立会
			大塚久保遺跡	〃 〃	5,000	水路削平部分調査 他は保存
	津西部	16	田中町南方道跡	津市	9,000	試掘調査、工事立会
	津南部	12	若子A遺跡	津市	3,000	〃 〃
			若子B遺跡	〃	2,000	〃 〃
	豊地	27	堀田遺跡	一志郡嬉野町	50,000	水路部分調査、他は保存
			蛇亀橋遺跡	〃 〃	2,000	削平部分調査
津	三雲東部	7	—	—	—	

事業名	地区	事業面積	遺跡名	所在地	遺跡面積	取り扱い
津	白山	38 ha	正住寺遺跡	一志郡白山町	1,000 m²	試掘調査、工事立会
			上野遺跡	〃 〃	5,000	〃
	上御糸	20	下尾遺跡	多気郡明和町下尾	60,000	工事立会
	斎宮	40	広垣内西遺跡	〃 〃 池村	10,000	試掘調査 〃
	東黒部		湖田遺跡	松阪市	120,000	〃 〃
			東浦遺跡	〃	3,600	〃 〃
			広畑遺跡	〃	1,600	〃 〃
			所前遺跡	〃	3,000	〃 〃
			長垣内遺跡	〃	2,000	〃 〃
			丸橋遺跡	〃	7,500	〃 〃
	伊勢南部	19	元新田遺跡	伊勢市津村町	15,000	試掘調査
			中新田遺跡	〃	80,000	試掘調査、削平部分調査
			元新畑遺跡	〃	3,600	試掘調査
	相野谷	19	高畑遺跡	南牟婁郡紀宝町	13,000	排水路部分調査
	上部	13	老ノ木遺跡	上野市猪田	4,000	試掘調査，工事立会
	上部	17	—	—	—	
	上部	16	蓮池代遺跡	上野市蓮池	5,000	試掘調査、削平部分調査
			馬場遺跡	〃 〃	10,000	〃 〃
	赤目	7	川尻遺跡	名張市赤目町	20,000	工事立会
			梅ノ木遺跡	〃	10,000	〃 〃
			北戸遺跡	〃	11,000	〃 〃
	大山田	1	山出遺跡	阿山郡大山田村真泥	10,000	削平部分調査
	大山田第二	23	三谷遺跡	〃 〃 三谷	40,000	試掘調査、工事立会他は保存
			野中城	〃 〃 阿波	5,000	調査
			沢遺跡	〃 〃 〃	5,000	試掘調査、工事実施
	友田	22	鳩館跡	〃 阿山町西湯舟	400	工事立会
広域営農団地基幹農道整備	中勢		山ノ下B古墳群	安芸郡安濃町戸島	1,120	調査
	〃		白樫遺跡	安芸郡美里村足坂	1,000	〃
農免道路	度会第二		東畑中世墓	度会郡度会町上久具	300	〃
	〃		寺垣内遺跡	〃	500	〃
	大山田南部		三谷遺跡	阿山郡大山田村三谷	1,860	〃

(2) 道路改良、河川改修

道路改良、河川改修はその性格上、埋蔵文化財の保存を計ることが難しいが、分布調査、試掘調査の結果に基づき最少限の範囲について事前に発掘調査を実施している。しかし路線決定、用地買収等の事情により工事着手時が未定のものが多く、ほとんどが協議中となっている。

本年度県教育委員会が実施した発掘調査は道路関係3件、河川関係1件である。

〔建設省，道路公団関係道路計画地内埋蔵文化財〕

事業名	遺跡名	所在地	遺跡概況
国道1号線	谷山古墳	亀山市井田川町	古墳後期、木棺直葬
	山城遺跡	〃 川合町	古墳期以降集落跡
	堀越遺跡	〃 椿世町	〃
	大坪遺跡	〃 〃	〃
	正和浦遺跡	〃 亀田町	〃
	千本塚遺跡	〃 羽若町	〃
	糀屋垣内遺跡	〃 〃	〃
	高飛館跡	〃 野村町	中世館跡
国道42号線	御堂山遺跡	松阪市西野々町	集落跡
	四常遺跡	〃 朝日町	〃
	黒田山古墳群	多気町兄国	円墳3基
	井田上野遺跡	紀宝町井田	弥生期以降集落跡
	下地町田遺跡	〃 成川	古墳期 〃
近畿自動車道伊勢線	庄村遺跡	一志町荘村	室町期以降集落跡
	八反田遺跡	〃 片野	〃
	偏ァノ木遺跡	〃 日置	〃
	口山田古墳	嬉野町口山田	円墳
	口山田遺跡	〃 〃	古墳期以降集落跡
	天保B遺跡	〃 島田	〃
	天保古墳群	〃 〃	円墳6基

事業名	遺跡名	所在地	遺跡概況
近畿自動車道伊勢線	天保館跡	嬉野町島田	中世館跡
	中尾遺跡	〃 薬王寺	古墳期以降集落跡
	ビハノ谷古墳	〃 〃	円墳
	平田遺跡	松阪市小野町	古墳期以降集落跡
	下山見A遺跡	〃 小阿坂町	〃
	〃 B遺跡	〃 〃	〃
	新田遺跡	〃 〃	〃
	岩谷古墳群	〃 大阿坂町	円墳2基
	垣内田遺跡	松阪市岩内町	弥生期以降集落跡
	定井遺跡	〃 伊勢寺町定井	古墳期以降集落跡
	平林古墳群	〃 〃	円墳、横穴式石室6基
	北フタゴ遺跡	多気町井戸谷	室町期以降集落跡
	湯谷遺跡	〃 五桂新田	〃
	大皆谷遺跡	〃 〃	〃
	西谷遺跡	〃 成川	鎌倉期
	富ケ城	玉城町山神	中世城跡
	山上東城	〃 〃	〃
	菩提寺遺跡	玉城町 〃	室町期以降集落跡
	楠ノ木遺跡	〃 勝田	縄文期 〃
	細谷遺跡	〃 宮古	鎌倉期 〃
	蚊山遺跡	〃 岩出	〃
	白木東遺跡	伊勢市津村町	室町期 〃
	落合1・2号墳	〃 〃	円墳2基
	大曽谷遺跡	〃 前山町	室町期以降集落跡
	河原谷遺跡	〃 〃	〃
的矢・大王線	殿畑遺跡	松阪市国府	奈良期以降集落跡、一部調査済
安乗・港線	国府城跡・殿畑遺跡	〃 〃	〃
里・鹿谷線	浜田浜遺跡	〃 阿児町甲賀	弥生期以降集落跡
都区計画道路多度香取線	多度小学校遺跡	桑名郡多度町小山	縄文期以降集落跡
	天王平尾津平遺跡	〃	平安期以降集落跡
豊里・久居線	小舟古墳	津市上浜町	円墳 100㎡
	峯治城跡	〃 一身田町	中世館跡 5,000㎡
白木西町線	若山城跡	亀山市若山町	中世城跡

〔県土木部関係道路計画地内埋蔵文化財〕

事業名	遺跡名	所在地	遺跡概況
国道306号線			
	大西神社古墳	北勢町阿下喜	円墳 2基
	覚正垣内遺跡	〃 覚正垣内	鎌倉期以降集落跡

事業名	遺跡名	所在地	遺跡概況
国道306号線	野々田遺跡	大安町野々田	縄文期集落跡
	野々田古墳群	〃　〃	円墳10基、3基残存
	奥郷浦古墳群	菰野町潤田	円墳　3墓
国道365号線	大久保城跡	大安町片樋	中世城跡、土塁残存
	門ノ上古墳群	四日市々小牧町	円墳　6基
	真造寺遺跡	〃　〃	弥生期集落跡
	高岡山古墳	〃　上海老町	円墳　3基
国道306号線	三宅西条城跡	鈴鹿市三宅町	中世城跡
国道166号線	下滝野城跡	飯高町下滝野	中世城跡保存
国道167号線	赤坂遺跡	鳥羽市堅神	古墳後期以降集落跡、調査済
国道260号線	田尻浜遺跡	志摩町片田	鎌倉期以降集落跡
	宮ノ前遺跡	〃　御座	〃
	宮ノ前北遺跡	〃　〃	〃
	御座城跡	〃　〃	中世城跡
	御座北西遺跡	〃　〃	鎌倉期以降集落跡
国道311号線	ハザマ遺跡	熊野市有馬町	古墳期以降集落
	大高見遺跡	〃　金山町	〃
国道　25号線	福地城跡	伊賀町柘植町	中世城館、一部調査
県道草生曽根線	岡副遺跡	安濃町岡副	古墳期以降集落跡、試掘済
的矢・鳥羽線	鍋田古墳群	磯部町飯浜	円墳　19基
	長浜遺跡	〃　〃	弥生期以降集落跡
的矢・大王線	殿畑遺跡	〃　国府	奈良期以降集落跡、一部調査済
安乗・港線	国府城跡・殿畑遺跡	〃　〃	〃
里・鹿谷線	浜田浜遺跡	〃　阿児町甲賀	弥生期以降集落跡
都市計画道路多度香取線	多度小学校遺跡	桑名郡多度町小山	縄文期以降集落跡
豊里・久居線	小舟古墳	津市上浜町	円墳　100㎡
	峯治城跡	〃一身田町	中世館跡　5,000㎡
白木西町線	若山城跡	亀山市若山町	中世城跡
原・生首線	笠松遺跡	度会郡勢和村丹生	先縄文期、散布地　一部調査済

〔河川改修計画地内埋蔵文化財〕

事業名	遺跡名	所在地	遺跡概況
木津川改修(国)	北堀池遺跡	上野市大内	弥生期以降集落跡、調査中
木津川改修(県)	下郡遺跡	上野市下郡	古墳期以降集落跡、調査中

〔公団・公社事業計画地内埋蔵文化財〕

事業名	遺跡名	所在地	遺跡概況
水資源開発公団三重用水	中垣内遺跡	北勢町奥村	散布地

Ⅱ　埋蔵文化財保護体制の強化

1.　発掘調査事務所

昭和５４年６月に開所した三重県斎宮跡調査事務所は、計画的発掘調査及び史跡の現状変更に伴う明和町教育委員会主体の発掘調査にあたっている。上野整理所は伊賀地区における国・県等が実施する土木工事に伴う発掘調査を実施するとともに、市町村教育委員会が実施する発掘調査の指導にあたっている。

(1)　斎宮跡発掘調査事務所

所在地　　多気郡明和町斎宮

（電）　　０５９６５－２－１７３２

月	県　　関　　係	町　　関　　係
5	○第３６次発掘調査（中垣内地区、７月まで） ○斎宮跡保存啓発事業（講演）	○第３７－１次発掘調査（宅地造成） ○地権者を守る会
6	○第３６次発掘調査現地説明会 ○斎宮跡保存顕彰三重県議員連盟　役員会 〃　　総　会	○第３７－２、３７－３次発掘調査（個人住宅） ○掛川市加茂荘菖蒲園・登呂遺跡見学
7	○県議会文教常任委員現地視察 ○第３８次発掘調査（塚山地区、８月まで） ○斎宮跡保存啓発事業（地域住民の集い） ○斎宮跡保存顕彰三重県議員連盟視察	○野花しようぶ移植 ○第３７－４次発掘調査（宅地造成） ○第３７－５次　〃　（個人住宅）
8	○第３８次発掘調査現地説明会 ○斎宮跡調査指導委員会 ○県政バス教室 ○斎宮跡保存啓発事業（地域住民の集い） ○土器水洗中「水司鴨口」土器発見	○第３７－６次発掘調査（農業用倉庫） ○斎宮跡保存問題協議（文化庁・県・町）
9	○第３９次発掘調査（古里地区、１１月まで）	○第３７－４次発掘調査南半部現地説明会 ○第３７－７次発掘調査（斎宮公民館） ○明和町議会、第３７－４次現場視察
10	○元興寺特別展へ緑釉陶器出品	○町民文化展へ斎宮跡出土遺物展示

月	県　関　係	町　関　係
11	○第３９次発掘調査現地説明会 ○大規模遺跡調査五県会議	○斎宮跡講演会「水司鴨口をめぐって」 ○第３７－８、３７－９次発掘調査（農業用倉庫）
12	○大規模遺跡環境整備担当者会議 ○第４０次発掘調査（東加座地区、５７年２月まで） ○第４１次　〃　（トレンチ調査、５７年１月まで） ○斎宮跡保存の請願採択 ○文化庁等へ「斎宮跡の保護・保存に関する意見書」提出	○第３７－４次発掘調査北半部現地説明会 ○第３７－１０次発掘調査（個人住宅） ○斎宮跡地権者を守る会役員会 ○国史跡「斎宮跡」の保存・保護に関する請願採択
1	○第４０次発掘調査現地説明会 ○文化庁文化財保護部長現地視察	○合同役員会議（地権者を守る会、牛葉地区対策委員会、明和町） ○第３７－１１次発掘調査（近鉄駅便所改築） ○第３７－１２次　〃　（個人住宅）
2	○斎宮跡調査指導委員会	○第３７－１３次発掘調査（個人住宅） ○県教育次長へ「斎宮跡保存について」陳情
3	○斎宮跡保存啓発事業（講演・協議） ○発シＢ遺跡試掘調査指導	○県教育長へ「斎宮跡保存について」陳情

(2)　埋蔵文化財上野整理所

所在地　　上野市丸之内１１７

（電）　０５９５－２４－００７９

月	国・県ほか関係事業	市町村指導
7	○赤阪整理所閉所、新整理所開所 ○県圃　大山田・上野東部地区試掘 ○県圃　大山田・上野東部名張地区試掘 ○国営　青蓮寺農地開発事業関係協議及び試掘 ○農免道路三谷遺跡調査（１０月まで）	○青山町　青山中移転予定地の協議 ○上野市丸山中体育館試掘指導 ○上野市喜春西館調査指導及び久米山古墳群の協議 ○青山町塚原遺跡調査協議

月	国・県関係事業	市町村指導
8	○県圃　馬場遺跡調査（１０月まで）	○大山田村出後地区砂利採取事業協議
9	――――――	――――――
10	○県圃　蓮池代遺跡調査（１月まで） ○県圃　野中城・山出遺跡調査（11～12まで） ○県圃　老ノ木遺跡試掘 ○県　木津川改修工事下郡遺跡調査（2月まで） ○国　国道２５号線側道建設福地城調査（１２月まで）	○青山町　下川原遺跡試掘指導 ○大山田村　出後地区砂利採取事業試掘指導
11	――――――	――――――
12	――――――	○上野市久米山古墳群協議
1	○大阪市博特別展「伊賀上野の文化財」打合せ	――――――
2	○県圃　５７年度事業予定地内分布調査	――――――
3	○大阪市博特別展展示品搬出 ○県圃　５７年度事業予定地内分布調査	――――――

国営：農林水産省東海農政局国営総合農地開発事業青蓮寺地区

県圃：県営圃場整備事業

2. 三重県文化財調査員の設置

埋蔵文化財を主とする文化財の保護の徹底をはかるため、小中高の教員および民間の有識者などを三重県文化財調査員として各教育事務所に配置しパトロールを実施している。

〔三重県文化財調査員設置要綱〕

（目　　的）

第１条　三重県内に所在する埋蔵文化財を中心とし、必要に応じてその他の有形文化財、民俗文化財、史跡名勝天然記念物（以下「文化財」という。）の保護の万全を図るため、三重県文化財調査員（以下「文化財調査員」という。）を設置する。

（任　　務）

第２条　文化財調査員は、次に掲げる調査事項に従事する。

①　三重県文化財パトロール事業における文化財の巡視及び調査

②　国、県営の各種土木建設事業における文化財の分布及び確認調査

③　埋蔵文化財発掘調査における調査協力

④　その他、文化財の保護に関し必要と認める調査

（定　　数）

第３条　文化財調査員の定数は５０人以内とする。

（任　　用）

第４条　文化財調査員は、地方公務員法第３条第３項第３号の規定により任用する。

2.　文化財調査員は、大学において考古学、歴史学を専攻した者又は、それに準ずる専門的知識を有する者のうちから、教育委員会が任命する。

3.　文化財調査員の任用期間は１年とし、再任することができる。

（勤務条件等）

第５条　文化財調査員の勤務条件、事務処理その他職務に関し必要な事項は、教育長の承認を得て別に定める。

（報酬の額）

第６条　文化財調査員の報酬の額は、特別職に属する非常勤職員の報酬及び費用弁償に関する条例（昭和３６年条例第３号）第２条の別表の規定に基づき教育長が別に定める。

（費用弁償）

第７条　文化財調査員の費用弁償の額は、職員等の旅費に関する条例（昭和３２年条例第４６号）に規定する行政職４等級の職務にある者に支給される旅費の額に相当する額とする。

（公務災害補償）

第８条　文化財調査員にかかる公務災害補償は、議会の議員その他非常勤の職員の公務災害補償等に関する条例（昭和４２年条例第４３号）の定めるところによる。

（補　　則）

第９条　この要綱に定めるもののほか、文化財調査員に関し必要な事項は、教育長の承認を得て別に定める。

附　　則

1. この要綱は、昭和５３年５月１日から施行する。

2. 三重県文化財調査員設置要綱（昭和５４年４月２７日教育長決裁）は、廃止する。

〔昭和５６年度三重県文化財調査員一覧表〕

地区	氏　名	勤務先	勤務地	勤務先電話
桑名・員弁・三重・四日市・鈴鹿・亀山	伊東春夫	桑名高		
	松本　覚	北勢中		
	田中欣治	三重短大		
	佐々木　学	朝上小		
	片岡雅章	桑名高		
	森下　明	大矢知興譲小		
	大場範久	神戸高		
	保条　馨	※鼓ヶ浦中		
	石井　剛	三滝中		
	安川富春	中部中		
	太田元二郎	成徳中		
	垣見博一	白子高		
津・安芸・一志・久居	河合良成	南郊中		
	浅生悦生	西郊中		
	下井　彰	東観中		
	長谷川　博	高田高		
	田中喜久雄	長野小		
	杉谷政樹	菰野高		
	世古且守	松阪第二小		

地区	氏名	勤務先	勤務地	勤務先電話
松阪・多気・飯南・飯高	奥　義次	松阪商高		
	奥谷義一	久保中		
	福田　昭	多気中		
	岡本好雅	殿町中		
	河合　明	松阪工高		
	榎本義譲	松阪第四小		
	前川嘉広	花岡小		
	増田安生	明和中		
伊勢・度会・鳥羽・志摩	中西　健	度会中		
	山崎富三郎	上野小		
	村上喜雄	小浜小		
	御村精治	小俣中		
	川添昭博	浜島中		
	竹内正弘	鵜方小		
	藪谷尚子	大湊小		
	中世古祥道	自営		
	伊藤　保	自営		
	高見宣雄	磯部小		
上野・名張・阿山・名賀	森川桜男	自営		
	松山謙治	東小		
	岡本武和	柘植小		
	奥西　勲	箕曲小		
	松鹿昭二	名張高		
	寺岡光三	会社員		
	仁保晋作	高尾小		
	福井健二	郵便局員		
北牟婁・尾鷲	伊藤　良	団体役員		
	湊　章治	長島高		
南牟婁・熊野	嶋　正央	自営		
	牧野　弘	※井戸小		
	福村直人	新鹿小		

※教頭

（備　考）

文化財調査員数５０名

北勢	12名	上野	8名
中勢	6	尾鷲	2
松阪	9	熊野	3
南志	10		

勤務地と本人の住所が異なる場合は本人の居住地を（　）に示す。

3. 文化財パトロール

昭和５６年度の文化パトロールは、県文化財調査調員５０名に依頼し実施した。毎年のことながら巡視活動に地域的な偏りが見られるのは、調査員の地域による不足及び勤務条件等によるものと見られる。

(1) 開発計画と文化財パトロール

総パトロール件数７６０件のうち、埋蔵文化財関係が９０％を占め、処理件数２６件がすべて埋蔵文化財関係となっている。傾向としては、個人の宅地化及び小規模土取りなどがほとんどで、これらの小規模開発に対する埋蔵文化財保護の事前協議指導を県及び市町村教育委員会が一体となって対処する体制づくりが必要である。

(2) 文化財の実態確認

文化財パトロールによる新発見遺跡は約２８件であったが、周知の遺跡の実態確認により追加及び訂正されたものも多くある。

これらについては、遺跡カード、遺跡地図に追加記入し整備したうえで関係市町村教育委員会などに配布し活用している。

今年度の国・県指定の文化財に対するパトロール件数は７１件で全体の１０％にしかすぎないが、管理状況の把握及び管理に対する指導などを通じてより一層充実強化していく必要がある。

(3) 文化財保護の思想の普及

文化財パトロール活動を通じ、文化財の所有者や関係機関及び地域住民に対して適切な指導、助言や文化財愛護思想の普及に努めている。

〔昭和56年度　三重県文化財パトロール実施要項〕

1. 趣　　旨

県下における指定文化財（国・県）及び埋蔵文化財包蔵地（以下文化財という）を巡視し常時文化財の管理保存状況を把握し、適切な処置を講じて文化財保護の万全を期する。

2. 活動内容

(1) 文化財管理、保存状況把握のための巡視

(2) 所有者等に対する文化財の保護管理指導

(3) 巡視、保護管理指導についての結果報告

(4) 文化財保護思想についての普及活動

(5) その他文化財の保護保存に関すること

3. 期　　間

昭和５６年５月１日～昭和５７年３月３１日

4. 調 査 員

三重県文化財調査員がこれにあたる

5. 事業の実施について

(1) 事業は各教育事務所が執行するものとし、各教育事務所長は実施計画書（様式１）を２期にわけて、三重県教育委員会文化課長に提出する。（前期分５月１７日、後期分１０月１０日までに）

(2) 文化財パトロールは、三重県教育委員会が任命した文化財調査員が、前項実施計画書に基づき実施する。

(3) 文化財調査員は、文化財パトロール実施報告書（様式２）を毎月末までに各教育事務所長に提出し、各教育事務所長は、とりまとめて翌月１０日までに文化課長に提出する※なお、緊急事態が発生した場合は、電話その他の方法により、すみやかに関係教育事務所に報告する。

※（その写しを関係市町村教育委員会へも送付）

(4) 各教育事務所長は、緊急事態の状況に応じて文化課長及び関係市町村教育委員会に連絡する。

(5) 文化課長は、前項の事情により、早急に文化財パトロールカーを出動させ、文化財の保護対策を講じる。

(6) 事業の執行にかかる経費は、3期にわけて予算を令達する。各教育事務所長は、全事業終了後、すみやかに実績報告書（様式3）を三重県教育委員会文化課長に提出する。（昭和56年4月2日までに）

(7) その他必要な事項は、そのつど指示する。

〈様式1……B5判〉

文化財パトロール
実施計画書

昭和　年　月　日
（　　～　　）
昭和　年　月　日

月　日	調査員名	パトロール地区	内　容	備　考

〈様式2……B5判〉

文化財パトロール実施報告書

経　由	昭和　年　月　日 教育事務所	所長印	
文化財 パトロール地区 調査年月日 調査員			

	文化財の名称	所在地	調査事項
報告事項			※ 裏面に、問題箇所、見取図、写真等記入のこと。
備　考			

〈様式３……Ｂ５判〉

昭和　　年度　文化財パトロール事業実績報告

昭和　　年　　月　　日付け第　　号で事業施行の通知のあった文化財パトロールの実績について、下記の通り報告します。

記

1. 文化財パトロールの実績

月　日	調　査　員	パトロール地区	備　　考

2. 支出明細書

項　目	令　達　額	支　出　額	内　　訳
			※　旅費については、行き先、回数を明記すること。

〔昭和５６年度　文化財パトロール実施状況〕

種別	重要文化財		史跡		名勝		天然記念物		埋蔵文化財		処理内容		
対象数	国146 県209		26 64		5 11		23 76		8534				
摘要 月別	巡視	処理	巡視	処理	巡視	処理	巡視	処理	巡視	処理	教育事務所	文化財名	内容
4	件 —	件 —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —			
5	3	—	—	—	—	—	2	—	44	5	中勢 上野 南志 中勢	丸岡古墳群（土取り） 来迎寺古墳（団地計画） 西ケ崎古窯跡（土取り） 志島第９号墳（個人） 前山城址	町教委へ連絡 市　〃 町　〃 現地立会 町教委へ連絡
6	1	—	—	—	—	—	1	—	47	1	中勢	野呂館址　（農道）	町教委へ連絡 現地立会 調査予定
7	6	—	1	—	—	—	3	—	49	1	尾鷲	曽根遺跡　（プール）	市教委へ連絡
8	3	—	3	—	1	—	4	—	136	4	松阪 〃 中勢 上野	高田古墳群（土取り） 秋丸遺跡　（団地） シャレコ古墳（土取り） 内保館址　（個人）	市教委へ連絡 〃 町　〃 町　〃
9	1	—	—	—	—	—	3	—	50	3	中勢 南志 上野	太田城址　（土取り） 江馬　〃　（道路） 新太仏寺経塚	町教委へ連絡 現地立会 〃 村教委へ連絡
10	—	—	—	—	—	—	1	—	39	2	尾鷲 北勢	中山遺跡　（道路） 七ツ塚２号墳（土取り）	市教委へ連絡 町　〃
11	17	—	4	—	—	—	—	—	18	2	中勢	城坂古墳　（町道） 〃　館跡	町教委へ連絡 〃
12	4	—	1	—	1	—	4	—	81	1	南志	明豆遺跡　（宅地化）	町教委へ連絡
1	4	—	1	—	—	—	1	—	118	4	中勢 南志	渋見城跡　（土取り） 長浜製塩跡（道路） ナベタ古墳群（　〃　） ワニガ島墳墓（　〃　）	市教委へ連絡 現地立会 調査予定 〃
2	1	—	—	—	—	—	—	—	48	3	南志	古宮遺跡　（墓地） 松本　〃 中井古墳　（駐車場）	町教委へ連絡 〃 〃
3	—	—	—	—	—	—	—	—	59	—			
計	40	—	10	—	2	—	19	—	689	26	総パトロール件数 総処理件数		７６０件 ２６件

〔四日市市文化財パトロール調査員〕

調査員	所属	住所
安田 日出麿	三重平中学校	
石井 豪	三滝中学校	
片岡 雅章	県立桑名高校	
森下 明	大矢知興譲小学校	
樋尾 重雄	日本合成ゴムKK四日市工場	

	分担地区	調査員
A 地区	保々、下野、八郷、大矢知、富州原、富田	片岡・森下
B 地区	県、三重、神前、羽津、海蔵、橋北、旧市	安田・樋尾
C 地区	桜、川島、四郷、常磐、日永、塩浜	安田・石井
D 地区	水沢、小山田、内部、河原田	樋尾・森下

（註 「四日市市文化財パトロール要項」は、『三重県埋蔵文化財年報7』昭和51年度版 1977.3を参照）

〔津市埋蔵文化財パトロール〕

調査員	所属	住所
生駒 勝	聾学校	
河合良成	橋南中学校	
和田 勉	〃	
高士洋幸	新町小学校	
三重大学歴史研究会原始古代史部会		
津高地歴クラブ（顧問 福江克明）		
津西高郷土史クラブ（〃 栗本俊雄）		
〃 地歴クラブ（〃 徳井賢）		

4. 埋蔵文化財発掘技術者研修

埋蔵文化財の調査に関する専門的知識と技術の向上を目的とした研修事業は、昭和42年度以来、学校教員を対象として夏期に県外の研究機関に派遣して実施

してきた。しかし夏期の短期間の研修では不十分であるため、昭和５４年度からは研修事業を強化拡大し、県外３カ月、県内９カ月の１カ年研修を実施している。

昭和５６年度研修生

桜　木　博　文　（神戸高等学校教諭）

久志本　鉄　也　（東員中学校教諭）

西　森　平　之　（西小学校教諭）

本　堂　弘　之　（大成小学校教諭）

〔昭和５６年度埋蔵文化財発掘技術者研修実施要項〕

1. 目　　的

埋蔵文化財の発掘調査および保存についての専門的知識と技術の習得につとめようとする者を、県外の埋蔵文化財関係研究機関に派遣し研修を受けさせるとともに、県内においても現地研修し、埋蔵文化財の保護体制の強化に資することを目的とする。

2. 主　　催

三重県教育委員会

3. 期　　間

昭和５６年４月１日から昭和５７年３月３１日まで

県外研修　　３カ月

県内研修　　９カ月

4. 場　　所

県外　　奈良市佐紀町　　奈良国立文化財研究所

埋蔵文化財センター他

県内　　緊急発掘調査現場

5. 人　　員

若干名

6. 参加資格

県内の小中高校の教職員のうちで、考古学、歴史学に造けいが深く、発掘調査の経験を有する者

7. 研修内容

(1) 講　　義

総論　○文化財の保護

各論　○文化財保護法

○史跡、埋蔵文化財保護の現状

○発掘調査方法

調査計画、墳墓、集落、生産所、窯、宮殿官衙寺院跡の調査

○遺物調査方法

実測原理、土器、土製品、石器、木製品、瓦の観察と整理、人骨、植物遺体の調査

○関係学概説

建築構造、測量、保存科学、文献史学

○報告書作成方法

(2) 実習　○発掘技術実習、測量実習、遺跡実測実習、写真撮影実習、遺物保存処理実習

8. 講　　師

奈良国立文化財研究所技官、県係員他

9. そ の 他

(1) 研修参加者の旅費は、県外県内とも県の規程にしたがって支給する。

(2) 研修期間中は、当該学校に対し臨時教員が補充される。

(3) 研修を修了した者には、修了証書を交付する。

〔研修年間計画概要〕

内容／月	A 遺物調査方法	A 発掘調査方法	A 報告書作成	A 研修場所	B 遺物調査方法	B 発掘調査方法	B 報告書作成	B 研修場所
	実測原理 / 実測実習 / 遺物整理 / 遺物写真	調査計画 / 遺構観察 / 記述記録 / 遺構実測 / 遺構写真	記述原理 / 構成原理 / レイアウト		実測原理 / 実測実習 / 遺物整理 / 遺物写真	調査計画 / 遺構観察 / 記述記録 / 遺構実測 / 遺構写真	記述原理 / 構成原理 / レイアウト	
4				県埋蔵文化財整理室				県埋蔵文化財整理室
5				発掘調査現場				発掘調査現場
6								
7		県外研修		飛鳥藤原宮跡発掘調査部				
8				斎宮跡調査事務所		県外研修		埋蔵文化財センター
9				発掘跡調査現場				県埋蔵文化財整理室
10				県埋蔵文化財整理室				
11		県外研修		埋蔵文化財センター				
						県外研修		飛鳥藤原宮跡発掘調査部
12				県埋蔵文化財整理室				県埋蔵文化財整理室
1				斎宮跡調査事務所				発掘調査現場
2				発掘調査現場				
		県外研修		埋蔵文化財センター				
3				県埋蔵文化財整理室				県埋蔵文化財整理室

（注） 研修場所を変更する場合もある。

〔昭和５６年度研修内容〕

月	県内研修		県外研修
4	○文化財保護行政について ○遺物整理実習	○遺跡見学	
5		○分布調査	
6		○発掘調査実習（高畑古墳・天王平遺跡）	
7		○発掘調査実習（斎宮）	○平城宮跡発掘調査部
8			○埋文センター
9		○発掘調査実習（斎宮） ○発掘調査実習（浄土寺遺跡）	
10		○発掘調査実習（久保遺跡）	○飛鳥藤原宮跡発掘調査部
11		○発掘調査実習（下郡）	
12		○発掘調査実習（斎宮）	
1		○遺構実測実習（戸島古墳群）	
2	○図版作成実習		
3	○室内講義 ○報告書作成実習		

〔室内講義内容〕

月　日	内　容	担　当	場　所
3・1	○文化財の取り扱い ○　〃	文化財係長　上田　勝 主事　伊藤克幸	津埋蔵文化財整理室
3・2	○考古学とは	主任技師　伊藤久嗣	〃
3・3	○弥生文化の展開 ○古式土師器 ○前期古墳文化	技師　谷本鋭次 主事　早川裕己 〃　吉村利男	〃
3・4	○後期古墳文化 ○埴輪の作成と分類	〃　駒田利治 技師　山田　猛	〃

日　時	内　　容	担　　当	場　　所
3・4	○奈良、平安時代の土師器	技　師　　新田　洋	津埋蔵文化財整理室
3・5	○奈良、平安時代の集落 ○古代寺院 ○中世の土器	主任主事　　中森英夫 主　事　　中村信裕 〃　　森前　稔	〃
3・8	○中世城館	〃　　山下雅春	〃
3・11	○旧石器と縄文文化 ○水田と農耕具 ○古墳時代の土器 ○奈良、平安時代の施紬陶器	〃　　倉田直純 技　師　　吉水康夫 主　査　　山沢義貴 主　事　　大西素行	斎宮跡調査事務所

5. 埋蔵文化財担当者の研修

県及び市町村教育委員会の埋蔵文化財担当者に対する研修会を、隔月に開催地を順次交替して開催している。

この研修会は県教委文化課（１２名）、斎宮跡調査事務所（４名）、市（１１名）、研修生（４名）の全員参加を原則としており、埋蔵文化財に於ける行政上の諸問題、調査方法、調査結果等について情報交換及び討議を行った。

また、重要遺跡の見学とともに文化財関係の講演を聴講した。

開催日	開催地	参加数	講演・見学
56. 4. 20	県　庁	33	「群集墳消滅期の古代家族について」 県文化課　山田　猛 「南勢地方の古墳文化について」 松阪市教育委員会　下村　登良男
56. 6. 26	伊勢市中央公民館	31	「所謂〃カマド塚〃の再検討」 伊勢市教育委員会　岩中　淳之 「奈良、平安時代の土師器と須恵器について」 斎宮跡調査事務所　倉田　直純
56. 8. 25	四日市市 中部地区市民 センター	23	「四日市市における文化行政について ――文化の時代に応えるために――」 四日市市教育委員会　水谷　政春

開催日	開催地	参加数	講演・見学
56. 8. 25	四日市中部地区 市民センター	23	・大膳寺跡、下野地区郷土資料館、南小山廃寺 天王平遺跡
56. 11. 12	鳥羽市民文化会館	25	「中世土器をめぐる諸問題」 県文化課　伊藤久嗣 「志摩の土器製塩と製塩実験」 県文化財調査員　伊藤保
56. 12. 22	久居市教育委員会	24	「宝篋印塔をめぐる中世村落の一様相」 久居市教育委員会　辻　富美雄 ・高田本山専修寺如来堂
57. 2. 25	鈴鹿市立図書館	28	「鈴鹿市の梵鐘」 元金属試験場　福本桂太良 「西高山2号墳出土の埴輪について」 鈴鹿市教育委員会　中森成行

Ⅲ　緊急調査の現状

1.　大規模開発事業地域遺跡分布調査

昭和５２年度以来実施している本調査は、昭和５６年度は中勢用水農業水利事業予定地内の遺跡分布調査として実施した。調査の目的は同事業地内の埋蔵文化財の分布調査に基き、遺跡分布地図原図を作成して、その複製を土木部などの関係機関に配布することにより、埋蔵文化財の周知徹底をはかり、その保全のための協議資料とすることにある。

調査対象地域は、河芸町、安濃町、津市内の幹線及び支線水路建設予定地域である。これらの地域について、県文化財調査員他（１１名）による現地踏査を実施し、未発見遺跡の確認及び遺跡台帳に登録済の周知の遺跡の現状確認と、各種事業地域における保存遺跡の現状確認を実施した。

〔昭和５６年度・大規模開発事業地域遺跡分布調査実施要項〕

1.　調査の目的

中勢用水農業水利事業予定地内の埋蔵文化財の分布調査を実施して遺跡分布地図原図を作成し、その複製を農林水産部などの関係機関に配布することにより、埋蔵文化財の周知徹底をはかり、その保全のための協議資料とする。

2.　調査の組織

１）　調査主体　　三重県教育委員会

２）　調査指導員　　勝山清次（国立三重大学助教授）

　　調　査　員　　三重県文化財調査員

３）　調査協力　　各教育事務所、市町村教育委員会、三重大学歴史研究会古代史部会

3.　調査の実施期間

第１回調査　　昭和５７年１月中

第２回調査　　昭和５７年２月中

4.　調査内容

中勢用水農業水利事業地域内における埋蔵文化財の分布調査（周知の遺跡の現況把握及び、新発見遺跡の分布・確認調査）

5. 配布資料

・ 埋蔵文化財包蔵地調査カード作成上の注意事項

・ 関係事業計画平面図

・ 市町村別遺跡地図

・ 埋蔵文化財包蔵地調査カード

・ 分布調査報告用紙

6. 調査結果の報告

1） 埋蔵文化財の所在地と範囲を記入した地図

2） 分布調査報告

3） 埋蔵文化財包蔵地調査カード

7. 調査費

三重県教育委員会が負担する。

〔調査年度及び対象地域〕

年　度	調査対象事業地域
昭和52	農村基盤整備事業地域　（終了）
53	〃　（〃）
54	道路新設改良事業地域　（〃）
55	〃　（〃）
56	治山治水事業地域　（〃）

〔昭和５６年度大規模遺跡分布調査結果〕

市町村	遺跡数	内訳				
		遺物包含地	古墳	城館跡	古窯跡	寺院跡
河芸町	3	1			2	
安濃町	77(54)	26(1)	49(27)	1(1)		1(1)
津市	8(3)		5(3)		3	
合計	88(57)	27(1)	54(30)	1(1)	5	1(1)
備考	( )は、新発見遺跡……(内数)					

2. 緊急発掘調査

本年度は県教育委員会が主体となって実施したものは２７件、市町村教育委員会が主体のもの３８件、遺跡調査会が主体のもの５件で総７０件の発掘調査があった。今年度も圧倒的に公共事業によるものが多く５１件を数える。

年度別発掘調査遺跡面積

年度＼調査主体	県	市町村	計
昭和５０年	１６,４５０㎡	１３,６００㎡	３０,０５０㎡
５１年	１１,２７０	３４,５４０	４５,８１０
５２年	２８,７５０	４７,７０８	７６,４５８
５３年	３１,８８７	３５,３７６	６７,２６３
５４年	３２,９５９	５２,２３９	８５,１９８
５５年	２５,３３２	２６,３７６	５１,７０８
５６年	２９,２００	２８,６１０	５７,８１０
合計	１７５,８４８	２３８,４４９	４１４,２９７

〔緊急発掘調査一覧〕

遺跡名	所在地	原因	調査主体	費用負担
天王平尾津平遺跡	桑名郡多度町小山字天王平	四日市多度線改良	県教委	県土木部
天王平尾津平遺跡	桑名郡多度町小山字天王平	多度香取線改良	県教委	県土木部
南小山廃寺	桑名郡多度町小山字塚原	多度御衣野線改良	町教委	町
小金塚遺跡	員弁郡東員町山田字小金塚	県営圃場整備	県教委	県農林水産部 県教育委員会
桧本垣内遺跡	三重郡菰野町榊字桧本垣内	県営畜産環境基盤整備	県教委	県農林水産部
首塚遺跡	三重郡菰野町竹成字首塚	県営圃場整備	県教委	県農林水産部 県教育委員会
市塚遺跡	三重郡菰野町福松	県営圃場整備	県教委	県農林水産部 県教育委員会
宮之上遺跡	三重郡朝日町埋縄字宮之上	土砂採取	町教委	町
大膳寺跡	四日市羽津甲字北高山	重要遺跡確認	市教委	市
西高山古墳群	鈴鹿市郡山町字西高山	三交不動産団地造成	市遺跡調査会	三交不動産
沢城	鈴鹿市飯野西条町	公民館建設	市教委	市
長尾古墳	鈴鹿市稲生町奥山脇字長尾	県立高校建設	市教委	市
徳居31.32号窯	鈴鹿市郡山町西高山	三交不動産団地造成	市遺跡調査会	三交不動産
正法寺山荘跡	鈴鹿郡関町鷲山字カマエ	重要遺跡確認	町教委	町
上野城	安芸郡河芸町上野字城屋敷	本城山青少年公園造成	町教委	町
山ノ下B古墳群	安芸郡安濃町戸島字山の下	県営広域営農団地基幹農道整備	県教委	県農林水産部
浄土寺米買遺跡	安芸郡安濃町浄土寺	県営圃場整備	県教委	県農林水産部
久保遺跡	安芸郡安濃町大塚字久保	県営圃場整備	県教委	県農林水産部 県教育委員会
専修寺如来堂	津市一身田町専修寺	如来堂保存修理	専修寺	専修寺
榊原城	久居市榊原町	小学校舎建設	市教委	市
大口北遺跡	久居市井戸山町	中学校用地造成	市教委	市
白樫遺跡	安芸郡美里村足坂字白樫	県営広域営農団地基幹農道整備	県教委	県農林水産部
高畑古墳	一志郡一志町井生字高畑	豊田照明工場建設	町教委	豊田照明
大谷広遺跡	一志郡白山町二本木字大谷広	小学校舎改築	町教委	町
蛇亀橋遺跡	一志郡嬉野町焼野	県営圃場整備	県教委	県農林水産部 県教育委員会

遺跡名	所在地	原因	調査主体	費用負担
堀田遺跡	一志郡嬉野町堀田	県営圃場整備	県教委	県農林水産部 県教育委員会
久保古墳	松阪市久保町字草山	保存区域確認	市教委	三交不動産
粟垣外遺跡	多気郡明和町坂本	砂利採取	町教委	町
発シB遺跡	多気郡明和町有爾中字発シ	小学校舎建築	町教委	町
斎宮跡	多気郡明和町竹川、斎宮	現状変更	町教委	町
斎宮跡	多気郡明和町竹川、斎宮	重要遺跡確認	県教委	県教育委員会
中新田遺跡	伊勢市津村町字中新田	県営圃場整備	県教委	県農林水産部 県教育委員会
八幡山古墳	伊勢市岡本町八幡山	㈱キタムラ産業 団地造成	市教委	㈱キタムラ産業
東山遺跡	伊勢市東大淀町東山	中学校講堂改築	市教委	市
殿垣外遺跡	伊勢市西豊浜町	防火水槽建設	市教委	市
長尾谷近世墓	伊勢市藤里町長尾谷	㈱丸紅宅地造成	市教委	㈱丸紅
荘司端遺跡	伊勢市有滝町荘司端	団体営圃場整備	市教委	市
宮之前遺跡	伊勢市有滝町宮之前	団体営圃場整備	市教委	市
御薗尾遺跡	伊勢市有滝町御薗尾	団体営圃場整備	市教委	市
中島遺跡	伊勢市有滝町中島	団体営圃場整備	市教委	市
田丸城	度会郡玉城町田丸	町庁舎建設	町教委	町
東畑中世墓	度会郡度会町上久具字東畑	農免道路	県教委	県農林水産部
寺垣内遺跡	度会郡度会町上久具字寺垣内	農免道路	県教委	県農林水産部
下之郷6号墳	志摩郡磯部町下之郷	団体営圃場整備	町教委	町
侍岡中世墓	志摩郡磯部町上之郷字別所	墓地拡張	町教委	町
風呂谷古墳	上野市四十九町字風呂ケ谷	中部電力営業所建設	市教委	中部電力
四十九遺跡	上野市四十九町	団体営圃場整備	市教委	市農林部
喜春遺跡	上野市佐那具字喜春	久津和産業宅地造成	市教委	久津和産業
才良遺跡	上野市才良	中学校体育館改築	市教委	市
下郡遺跡	上野市下郡字下代	木津川改修	県教委	県土木部
上野城	上野市丸之内	石垣修理	市教委	市

遺跡名	所在地	原因	調査主体	費用負担
西明寺	上野市西明寺	重要遺跡確認	市教委	市
馬場遺跡	上野市蓮池	県営圃場整備	県教委	県農林水産部 県教育委員会
蓮池代遺跡	上野市蓮池	県営圃場整備	県教委	県農林水産部 県教育委員会
老ノ木遺跡	上野市猪田字老ノ木	県営圃場整備	県教委	県農林水産部 県教育委員会
赤目壇遺跡	名張市赤目町壇	保育所改築	市遺跡調査会	市
原出遺跡	名張市蔵持町草田	団体営圃場整備	市教育委員会	蔵持土地改良区
平尾奥開遺跡	名張市夏見字鴻之巣	市中央東区画整理	市遺跡調査会	市
山出遺跡	阿山郡大山田村真泥字山出	県営圃場整備	県教委	県農林水産部 県教育委員会
野中城	阿山郡大山田村阿波	県営圃場整備	県教委	県農林水産部 県教育委員会
沢遺跡	阿山郡大山田村阿波	県営圃場整備	県教委	県農林水産部 県教育委員会
三谷遺跡	阿山郡大山田村三谷	県営圃場整備	県教委	県農林水産部 県教育委員会
三谷遺跡	阿山郡大山田村三谷	農免道路	県教委	県農林水産部
屋敷前遺跡	阿山郡大山田村出後	大地建設砂利採取	村教委	大地建設
福地城	阿山郡伊賀町柘植町字浦出	名阪国道側道整備	県教委	建設省
下河原遺跡	名賀郡青山町北山字八反田	鉱害災害復旧圃場整備	町教委	町
塚原古墳	名賀郡青山町羽根字塚原	広域市町村道整備	町教委	町
向井遺跡	尾鷲市向井字村ノ内	都市計画街路	市遺跡調査会	市
津ノ森遺跡	熊野市有馬町津ノ森	個人住宅	市教委	市
高岡遺跡	南牟婁郡紀宝町高岡字広畑	県営圃場整備	県教委	県農林水産部 県教育委員会

緊急発掘調査の概要（※印は国庫・県費補助事業、△印は試掘）

天王平・尾津平遺跡（桑名郡多度町小山字天王平・尾津平）

事 業 名　主要地方道四日市多度線改良工事

調査主体　三重県教育委員会

調査期間　昭和５６年６月２日～昭和５６年９月１２日

調査面積　２,９００㎡

概　　要　多度川南岸の丘陵東斜面にあり、標高約２０～４０ｍの傾斜地で現状は畑地である。遺構は竪穴住居跡１５、掘立柱建物跡８（いずれも奈良～平安時代）、中世火葬土壙１、溝１１である。遺物には、土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器などがある。なお、掘立柱建物跡には、５間×４間以上で総柱のものが１棟あるほか、竪穴住居跡では、全て一辺４～５ｍの長方形プランで、東隅にカマドを持つ例であった。

天王平・尾津平遺跡（桑名郡多度町小山天王平・尾津平）

事 業 名　桑名都市計画道路３、５、１７多度香取線道路改良

調査主体　三重県教育委員会

調査期間　昭和５６年１２月１５日～昭和５７年３月２７日

調査面積　２,７００㎡

概　　要　多度川南岸に広がる丘陵地東斜面にあり、標高２０～４０ｍとかなり勾配をもつ斜面に立地する。調査は、道路敷にあたる幅約２０ｍ×長さ１４０ｍの範囲で行なった。遺構は、奈良時代の竪穴住居３４戸・平安時代前半期と考えられる掘立柱建物７棟の他土壙・溝がある。竪穴住居は、一辺４ｍ前後の長方形プランのものが多く、周溝をもつ西壁にカマドをもつ例が多い。主柱穴がのこるものは、殆どない。掘立柱建物は、２間×２間、３間×３間の総柱建物と３間×２間の棟方向を北へ向けた建物がある。遺物は、土師器皿・甕、須恵器蓋、杯、灰釉陶器・山茶椀がある。

南 小 山 廃 寺（桑名郡多度町大字小山字東塚原）

事 業 名　町道多度御衣野線改良

調査主体　多度町教育委員会

調査期間　昭和５６年８月１７日～昭和５６年８月３１日

調査面積　９８㎡

概　　要　肱江川の北岸丘陵上にあり、東西７５ｍ、南北７５ｍが寺域と推定されているが、町道建設により削平されるため試掘調査を実施した。トレンチ９カ所を設定したが、柱穴、古瓦片が堆積した溝、焼土が確認された。遺物には、奈良時代の単弁蓮華文軒丸瓦のほか多量の平瓦、丸瓦片と、土師器、須恵器、灰釉陶器、常滑甕、同擂鉢、鉄滓が出土した。なお、調査の結果、遺構と遺物の濃密な面積約２,０００㎡について、本調査が必要であることが明確になった。

小 金 塚 遺 跡※（員弁郡東員町山田字小金塚・西畑）

事 業 名　県営圃場整備事業

調査主体　三重県教育委員会

調査期間　昭和５６年９月１６日～昭和５６年９月３０日

調査面積　４５０㎡

概　　要　員弁川の支流戸上川東岸の標高３８ｍの台地縁部に位置する。周辺にはかなりの土器片の散布が認められ、遺跡はかなりの範囲に及ぶものと思われる。今回の調査は、水路部分について行なったものである。調査の結果、平安時代の土壙１基、及びほぼ南北に走る溝２条を検出した。多数のピットも検出できたが、建物としてまとまりをもたない。遺物の量は、さして多くないが、石鏃・土師器・須恵器・灰釉陶器が出土しており、平安時代前期と考えられる。

桧 本 垣 内 遺 跡（三重郡菰野町大字榊字桧本垣内）

事 業 名　県営畜産環境基盤整備事業

調査主体　三重県教育委員会

調査期間　昭和５６年８月４日～昭和５６年８月６日

調査面積　１５２㎡

概　　要　菰野町榊集落の西側一帯は、標高７５ｍ前後の微高地となり、畑として利用されている。この微高地の北側及び中央部で山茶椀・土師器片が少数ながら散布している。４ｍ×２ｍの試掘壙を１９カ所設定した。基本層序は、表土下に黒色粘質土（黒ボク）が厚く堆積し、赤褐色粘土～黄茶色砂土を地山としている。表土層中から、土師器片・室町時代の山茶椀及び近世の陶磁器片が数点出土している。各グリッドでは、小さなピットを検出したものもあるが、遺物も伴出せず時期は不明である。

首　塚　遺　跡※△（三重郡菰野町竹成字首塚）

事 業 名　県営圃場整備事業

調査主体　三重県教育委員会

調査期間　昭和５６年７月１３日～昭和５６年７月１４日

調査面積　２６㎡

概　　要　菰野町竹成地内に所在する翁溜の南の標高７０ｍの平地に位置する。翁溜の土堤に連なるように２カ所の古墳状の高まりが認められ、トレンチ調査を行なった。調査の結果、黄茶色粘土の地山上に、厚さ１０㎝前後の黒色粘質土（黒ボク）が認められ、この上層に礫を含む茶褐色砂礫が１３０㎝ほど積まれている。盛土層に主体部を想定させる落ちこみも認められず、また出土遺物もないため、古墳状の高まりと思われたものは、翁溜の土堤の一部と判断される。

市　塚　遺　跡※△（菰野町福松字市塚）

事 業 名　県営圃場整備事業

調査主体　三重県教育委員会

調査期間　昭和５６年７月６日～昭和５６年７月１１日

調査面積　９６㎡

概　　要　菰野町福松地内の巡見街道沿いにあり、標高８９ｍ前後の水田に位置

する。土器片の散布が僅かに認められたので、水路部分約７００㎡において４ｍ×２ｍの試掘壙を１２ケ所設定した。各グリッドとも、表土・旧耕土・暗灰茶色砂質土・黒色粘質土（黒ボク）・地山の層序を示している。しかしながら、遺構は何ら検出されず、遺物も３カ所のグリッドから江戸時代と判断される天目茶椀・擂鉢・土師器片が数点出土したにとどまる。

宮之上遺跡（三重郡朝日町埋縄字宮之上）

事業名　土砂採取

調査主体　朝日町教育委員会

調査期間　昭和５６年７月２８日

調査面積　１２㎡

概　　要　標高約２７ｍの朝日丘陵地の東端に位置する。この地域は、ここ数年来土砂採取・宅地造成がさかんに行なわれ、宮之上遺跡の一部も破壊されてきた。今回の調査は、遺跡東端部にあたる地区の土砂採取にともない、遺構の保存状況を確認するため、町教委が試掘調査を行なった。調査は、２×２ｍの試掘壙を３カ所設け実施したが、遺構・遺物は検出されなかった。現地表で採集された遺物には、土師器・須恵器・山茶椀の破片がある。

大膳寺跡※（四日市市南鵜町）

事業名　重要遺跡確認調査

調査主体　四日市市教育委員会

調査期間　昭和５６年７月１６日～昭和５７年３月３１日

調査面積　6,１１１㎡

概　　要　昭和５２年度を第１次とした本事業も、今年度が最終の調査である。従来よりもさらに調査対象地を拡大した。山地斜面Ｉ－Ｉ地区の調査では、土壙等遺構を検出し、須恵器・土馬等の遺物が出土している。X′－U地区は、第２次と第４次調査の中間地域を調査したが、X′－V地区の様相よりは第２次調査地のＤ－Ａ地区で検出した溝跡や遺物がみられ、遺物包含層はうすい。東部

の井詰遺跡と推定されるX′－F・X′－A地区からは、土師器を中心に多量の遺物が出土した。遺構としては、竪穴住居跡と推定されるものが2カ所ある。多くの柱穴も検出しているが、建物跡としては並び建たない。遺物包含層は、黒灰色で厚く堅い。調査は全体として見ると寺院跡と関るものは何ら得えれず、従ってこれまで未解決の伽藍配置や寺域も解明するには至らなかった。

西高山古墳群（鈴鹿市郡山町字西高山）

事業名　三交不動産㈱団地造成事業

調査主体　鈴鹿市遺跡調査会

調査期間　昭和５６年5月１０日～昭和５６年１０月２０日

調査面積　4.０００㎡

概　　要　団地造成区域の南端部の丘陵上に、３基の古墳痕跡があり、これを西高山古墳群と呼称し調査を進めた。1号古墳は、丘陵の最西端部にあり、径30ｍ高さ２ｍを計る。中央部に大きな盗掘壙を残し、ここから鏡・直刀・玉類が出土したと伝えられている。調査した結果、遺物は周溝から見つかった埴輪片のみで他に何も検出されなかった。２号墳は、周溝を含め径３６ｍの前方後円墳である。後円部から前方部にかけて円筒埴輪の底部が巡り、前方部より須恵器の杯が数点出土しており、その時期は５Ｃ末～６Ｃである。円筒埴輪の他に人物・鳥・家型の埴輪片がある。３号墳は、径１２ｍ×１２ｍの部分的に周溝が巡る方墳で、２号墳の直ぐ東に位置する。出土遺物は、須恵器片が若干あるのみで、時期的には、２号墳より後出するものである。

沢　　城（鈴鹿市飯野西条町・寺家町）

事業名　公民館建設

調査主体　鈴鹿市教育委員会

調査期間　昭和５６年6月１９日～昭和５６年6月２０日

調査面積　２４㎡

概　　要　沢城は、神戸城（県指定）の前身で、その地名が示すごとく、沼沢地

を防禦に利用した城である。事業は堀跡と考えられる部分を埋めたてておこなわれることから、4×6mのトレンチを設定した。発掘区は水田として利用されているところから、全体に青灰色の粘土層でおおわれ、最下層は黄褐色の砂礫層で、ここには針葉樹、広葉樹の葉など自然遺物の堆積が多く目立った。層序の観察から、発掘区の西よりゆるやかに東にかけて傾斜することが認められたが、面積が限られているため西端部については確認できず堀跡とは断定できなかった。出土遺物は上層部から、土師器の細片、天目茶椀の破片が数点出土したのみである。

長　尾　古　墳（鈴鹿市稲生町長尾）

事 業 名　県立高校建設

調査主体　鈴鹿市教育委員会

調査期間　昭和56年7月18日～昭和56年7月19日

調査面積　80㎡

概　　要　建設予定地内について分布調査を実施したところ、1カ所について埴輪片が散布している地点が認められた。その部分を中心に2×40mのトレンチを設定し調査を進めたが、古墳と断定できる遺構は検出されなかった。おそらくは、頂上付近にあった古墳が昭和初期の開墾・区画整理事業のため壊され埴輪片が流されてきたものと理解される。出土遺物は、埴輪片10点ほどであった。

徳居31、32号窯（鈴鹿市郡山町西高山）

事 業 名　三交不動産㈱団地造成事業

調査主体　鈴鹿市遺跡調査会

調査期間　昭和56年12月3日～昭和56年12月10日

調査面積　200㎡

概　　要　昭和51年度に発掘調査した西高山A遺跡の台地南斜面に位置し、造成工事中に発見された。調査した結果、2基確認され1基（31号窯）には天

井部が遺存していた。構造は、３１号窯は地下式、３２号窯は半地下式と呼ばれるものか。３１号窯は直線的な窯で、焚口から煙道まで約１０ｍを計り、焚口壁で２～３回修理した痕が見受けられる。３２号窯は胴張りするもので、焚口から煙道まで7.９ｍを計り、旧窯を壊し新しい窯を構築しているため二重に重なりあっているように検出され、新窯の焚口近くにおいて、天井部を支えていた支柱の痕跡（竹の穴）が２～３個窯壁中から見つかっている。出土遺物は、両窯とも圧倒的に杯類が多く、６Ｃ末～７Ｃ頃の操業時期が想定され、須恵器の生産活動と集落との関係を知る上で貴重な発見となろう。

正法寺山荘跡※（鈴鹿郡関町鷲山字カマエ）

事業名　重要遺跡確認調査

調査主体　関町教育委員会

調査期間　昭和５７年１月１１日～昭和５７年３月３１日

調査面積　５００㎡

概　　要　本年度は第５次調査にあたり、遺跡南部中央（Ｅ区）の遺構確認を目的とした。調査の結果、山荘跡の正面入口部が確認されたことが特筆される。入口は包含層の上面に大型石を３段積みした石垣で東、西、南辺の一部を囲み、幅3.５ｍ、奥行約６ｍで、入口から北へ約５ｍの箇所で東西列の階段状の石列がある。また、第２次調査で確認した石垣のほか、石垣より古い時期の石列を確認した。遺物には、全域から土師器皿・羽釜・常滑甕・こね鉢・天目茶椀・信楽甕・瓦質火舎・瓦などが出土し、そのうち瓦は割合多く均整唐草文軒丸瓦が注目される。また、入口の階段部埋土から南北朝～室町時代の山茶椀が数点出土し、山荘跡以前の遺構の存在が推定された。

上　野　城（安芸郡河芸町上野字城屋敷）

事業名　本城山公園整備工事

調査主体　河芸町教育委員会

調査期間　昭和５６年８月３日～昭和５６年８月１０日

調査面積　２６８㎡

概　　要　上野城は、戦国時代末から江戸時代初頭にかけて、津城（津市）の仮城及び出城として存在し、参宮街道に沿う標高約３０ｍの台地上に位置する。台地の東端は断崖状をなし、北、西、南側は小谷で囲まれている。今回の試掘調査は、台地東方の二ノ丸地区が公園化されるため、遺構の確認を目的とした。その結果溝跡９、落ち込み１、瓦溜り１を検出し、少量の土師器片、三巴文軒丸瓦、唐草文軒平瓦、平瓦片が出土した。

以上の結果から、二ノ丸地区の遺構保存のため、表土の削平を遺構面に至らないこと、二ノ丸から本丸に新設する遊歩道を計画変更することとなった。

山ノ下Ｂ古墳群（安芸郡安濃町戸島字山ノ下）

事 業 名　県営広域営農団地基幹農道整備事業

調査主体　三重県教育委員会

調査期間　昭和５７年１月１６日～昭和５７年３月３１日

調査面積　1,１２０㎡

概　　要　安濃川右岸の標高約５０ｍ、比高１２ｍの丘陵端部にある古墳群で、調査前の分布調査、測量調査では、農道整備事業地内には　２基の古墳が確認され、路線外に３基の古墳が点在していた。また、谷をへだてた北の丘陵にはＡ群８基が知られており、調査を事業地内の全域を対象に進めていったところ、中世の遺構や畑地のために削平され、すでに地上からは姿を消した古墳が続々と現われ、路線外の３基を含め５世紀～７世紀前半にかけての計１８基の古墳が明らかになり、中世の溝や墓なども発見された。

特に古墳群は、幅0.５ｍ、長さ1.８ｍ程度の小石室あるいは箱式石棺とも考えられる主体部が主流を占め、木棺直葬、横穴式石室などの主体部をもつものも見られた。２号墳の横穴式石室は、追葬が行われており、当初の横穴式石室を追葬の際、縮小、補修しているのではないかと考えられ注目される。

各古墳の概況は、以下のとおりである。

項目 / 号墳	墳形	規模		内部構造		副葬品	備考
		径	高	種別	規模		
1	円墳	m 12.0	m 1.5	①木棺直葬	墓壙 0.8×3.0m 棺跡（0.45×2.4m）	刀子、土玉類、管玉、指輪（須恵器杯、蓋、 、壷）	周溝部 土師器台付甕 須恵器片
				②小石室	0.43×1.9m	須恵器杯、蓋	
				③木棺直葬	墓壙 09×4.45m 棺跡（0.55×3.7m）	（土玉類）	
2	〃	11.5	2.1	横穴式石室(上)	1.1×3.6m	須恵器杯、提瓶、刀子、鉄鏃	周溝部 須恵器多量
				〃 (下)	1.4×3.6m		
3	〃	11.0	1.6	—	—	—	（地区外）
4	〃	9.0	0.8	小石室	0.45×1.9m		
5	〃	10.0	1.8	—	—	—	周溝　須恵器
6	〃	9.5	1.4	—	—	—	（地区外）
7	—	—	—	小石室	—	—	
8	円墳	5.2	0.8	—	—	—	周溝　須恵器
9	〃	8.0	0.6	小石室	0.45×2.2m	（金環）	
10	〃	5.0	0.6	—	—	—	
11	—	—	—	小石室	0.35×1.4m	須恵器壷	
12	円墳	8.5	1.2	—	—	—	
13	〃	9.2	0.6	横穴式石室	1.3×3.6m	須恵器壷、甕、杯、金環 土師器甕、鉄鏃	
14	〃	10.1	0.6	—	—	—	周溝　土師器
15	〃	9.0	1.0	—	—	—	〃
16	〃	5.0	0.6	—	—	—	
17	〃	—	—	—	—	—	
18	〃	—	—	—	—	—	

浄土寺米買遺跡※（安芸郡安濃町浄土寺字米買）

事業名　県営圃場整備事業

調査主体　三重県教育委員会

調査期間　昭和５６年６月２５日～昭和５６年１１月１３日

調査面積　４,５００㎡

概　　要　安濃川右岸の標高約１４ｍの河岸段丘上にあり、現状は水田と畑地である。排水路と削平部分に９３カ所のトレンチを設定した結果、遺構が削平されるＡ・Ｂ・Ｃ地区を調査対象とした。主要な遺構は、Ａ地区で掘立柱建物跡１、溝１（平安～鎌倉時代）、Ｂ地区で土壙１、溝１（奈良時代）、溝５（鎌倉～室町時代）、Ｃ地区で大溝１（弥生～古墳時代）、掘立柱建物跡３（鎌倉～室町時代）のほか、井戸２、土壙１、溝７を確認した。遺物には、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、緑釉陶器、青磁、山茶椀、山皿があり、円面硯、フイゴ羽口が特筆される。円面硯は、県下では１６例目の出土に当り、奈良～平安時代の官衙的集落の存在が推定される。

大塚久保遺跡※（安芸郡安濃町大塚字久保）

事 業 名　県営圃場整備事業

調査主体　三重県教育委員会

調査期間　昭和５６年１０月１３日～昭和５６年１２月１２日

調査面積　１,０００㎡

概　　要　安濃川右岸の沖積平野の自然堤防上にあり、現状は畑地である。遺構は、掘立柱建物跡１、土壙墓４、溝２、井戸３、配石遺構１、列石２があり、いずれも鎌倉時代である。遺物には、須恵器・土師器・山茶椀・山皿・常滑甕青磁椀・緑釉陶器がある。特に表土直下で検出した大型の川原石からなる配石遺構は、人工的な配列箇所もあるが、全体にまとまりを欠いており、いかなる性格を持つものかは不明である。

専修寺如来堂※（津市一身田町専修寺）

事 業 名　専修寺如来堂保存修理調査

調査主体　専修寺

調査期間　昭和５６年１２月１０日～昭和５６年１２月１９日

調査面積　８０㎡

概　　要　如来堂解体修理に伴ない、現在の御影堂と結ぶ渡り廊下より古いと思

われる切り込みが発見された。このことにより、現在のものより古い廊下の存在が想定され、これを確認するための調査を実施した。調査の結果、古い廊下に伴なう遺構は発見されず、現在の廊下の下から江戸時代の便壷が一基発見されたのみであった。この便壷中より古銭（寛永通宝）が束になって出土した。

榊　原　城△（久居市榊原町）

事 業 名　久居市立榊原小学校改築事業

調査主体　久居市教育委員会

調査期間　昭和５６年５月２５日～６月３日

調査面積　５００㎡

概　　要　榊原城は、中世榊原氏の居城として作られた平山城である。今回発掘調査を実施した場所は城直下の北側平担地で、濠等の区割り施設の存在が予測された。調査の結果、地表より２０㎝で地山が検出された。遺構として幅４.６ｍ、深さ０.８ｍのＵ字形の堀跡、その城側に山砂をしきつめ、頭大の石を囲み火を焚いたカマド跡が発見された。堀からは山茶椀片、カマド跡からは山皿を重った状態で出土した。いずれも１４世紀のもので、築城時と考えられる。

城は三方が崖となり、今回調査した北側は堀で区割していたことがわかった。

大 口 北 遺 跡△（久居市井戸山町）

事 業 名　久居市立久居東中学校用地造成

調査主体　久居市教育委員会

調査期間　昭和５７年１月１１日～２３日

調査面積　４９６㎡

概　　要　本遺跡は低湿地の入りくんだ丘陵地帯である。試掘調査は学校用地３０,０００㎡の内、低湿地１２,０００㎡を除いた全域に２０ｍピッチ、４×４ｍのグリッド計３１カ所行なった。その結果、用地北西部丘陵上平担部に縄文時代晩期の土器片ならびにピット数個が検出された。土器片はピット内より出土した。南面する斜面、南側台地上は地表下６０㎝で地山となり全く遺構は発見し

なかった。遺構検出部分約1,000㎡については、今後発掘調査を行なう予定である。

白　樫　遺　跡（安芸郡美里村大字足坂字白樫）

事 業 名　県営広域営農団地基幹農道整備事業

調査主体　三重県教育委員会

調査期間　昭和５６年１０月２２日～昭和５７年１月２４日

調査面積　1,０００㎡

概　　要　長野川右岸の標高約45mの河岸段丘上の畑地に所在し、全域が黒ボクに覆われていた。遺構は室町時代の掘立柱建物６棟のほか、江戸時代以降の溝跡３、池跡１、井戸３、土壙１のほか、性格不明の集石遺構８がある。遺物は室町時代以降の土師器（鍋、羽釜、皿）、山茶椀、山皿、青磁椀、天目茶椀のほか陶磁器類が少量出土している。

高　畑　古　墳（一志郡一志町中井生字高畑）

事 業 名　豊田照明器具KK工場敷地造成

調査主体　一志町教育委員会

調査期間　昭和５６年５月６日～昭和５６年６月１０日

調査面積　５００㎡

概　　要　雲出川南岸の標高約70mの河岸段丘端部の畑地に所在し、直径約１４mの円墳で、幅約１～３mの六角形状の周溝がめぐる。内部主体は東南に開口する横穴式石室で、天井石と側壁の上半部の大半が開墾のため失なわれている。

石室は全長約7.5mの両袖式で、玄室長約3.6m、同幅約1.4m、羨道長約4m、同幅約1.2mである。出土遺物は攪乱状況であったが、金環５、須恵器杯身５、杯蓋３、高杯１、平瓶１が出土し、形式的に６C後半代の築造であることが判明した。

大 谷 広 遺 跡△（一志郡白山町大三字大谷広）

事 業 名　町立大三小学校々舎新築

調査主体　白山町教育委員会

調査期間　昭和５６年７月２日～昭和５６年７月３日

調査面積　約６０㎡

概　　要　本遺跡は、大三小学校を含む約５万㎡に及ぶ大集落遺跡で、弥生時代から古墳時代の遺物が広範に散布している。校舎新築予定地は、標高約６０ｍの台地上にあり、３カ所にトレンチを設定した。表土から地山面まで約６０㎝で、３層を確認したが、いずれにも遺物と遺構は検出しなかった。

蛇 亀 橋 遺 跡※（一志郡嬉野町字焼野）

事 業 名　県営圃場整備事業

調査主体　三重県教育委員会

調査期間　昭和５６年６月１日～昭和５６年７月２１日

調査面積　２,５００㎡

概　　要　中村川左岸に沿ってのびる台地上に位置し、標高約２３ｍである。発掘区域は東西に約１００ｍ離れた２地域であるが、地形的には元々は連続する台地上と考えられ、東から西へ漸次低くなる。検出遺構は縄文時代晩期の竪穴住居２棟（８ｍ×１０ｍの楕円プランのものと４ｍ×５ｍの隅丸方形プランのもの）と合口甕棺４基である。住居と墓の検出地は約１００ｍ隔たっており、集落内において住居群と墓地群が明確に分離していることがわかる。合口甕棺に使用されている甕形土器は晩期（馬見塚式併行期）に属し、住居の年代ともほゞ併行している。出土遺物は縄文晩期の土器を主体としているが、中・後期に属するものも少量検出している。石製品には縦長の石匙、石鏃があるが、少量である。いずれにしても、県下で初めての縄文晩期の住居跡発掘例として注目されるものである。

堀　田　遺　跡※（一志郡嬉野町宮古字堀田、天花寺字堀田）

事 業 名　県営圃場整備事業

調査主体　三重県教育委員会

調査期間　昭和５６年６月２３日～７月２０日

調査面積　５００㎡

概　　要　中村川左岸で、昭和５４年・５５年の二次にわたり発掘調査された天華寺廃寺の北東にひろがる遺跡である。昭和５３年度にも排水路の調査が実施され、奈良時代の土師器、須恵器が出土している。今回も排水路部分２カ所の調査で、遺物散布地の畑地は殆ど現状保存されることになった。名松線をはさんだすぐ東のＢ地区ではＬ字状に屈曲する幅２ｍの大溝が検出され多量の瓦が出土した。瓦類の出土は少ないが、重孤文軒平瓦や藤原宮式の軒丸瓦がある。遺物の出土量は整理箱で８８箱分あるが、そのほとんどは大溝を中心に出土した瓦である。他の遺物には土師器・須恵器があるが土師器の中には暗文が施されるものも少なくない。又、Ｂ地区より西方２００ｍのＡ地区では中世の土師器が主であり、遺跡の性格に差異が認められよう。Ｂ地区の大溝は天華寺廃寺の寺域と何らかの関連があると思われ、天華寺廃寺の報告と併せて今後の検討が待たれる。

久　保　遺　跡（松阪市久保町字草山）

事 業 名　保存区域確認調査

調査主体　松阪市教育委員会

調査期間　昭和５６年４月１５日

調査面積　１８㎡

概　　要　幅１ｍの試掘壙を３カ所設定し、周濠の確認調査を実施した。その結果、周濠は認められず、奈良時代と思われる古瓦片、中世の土師器（皿）が少量出土したにとどまった。

斎　宮　跡※（多気郡明和町斎宮・竹川）

事 業 名　重要遺跡確認調査

調査主体　三重県教育委員会

調査期間　昭和５６年５月８日～昭和５７年２月２０日

調査面積　5,757㎡

概　要

調査次数	調査地区	調査面積	調査期間	地籍・地番	所有者	備考
36	6ABI-F	1,087㎡	56. 5. 8～ 56. 7.16	明和町竹川字中垣内	個人	計画的面調査 C地区
38	6ACD-S	792	56. 7. 6～ 56. 8.24	明和町斎宮字塚山	個人	計画的面調査 C地区
39	6ABD-R. S・T	1,533	56. 9. 7～ 56.11.24	明和町竹川字古里	個人	計画的面調査 C地区
40	6AGH-L M	941	56.12. 7～ 57. 2.20	明和町斎宮字東加座	個人	計画的面調査 C地区
41	6AGJ-J 他	1,404	56.12. 7～ 57. 1.20	明和町斎宮地内	個人	計画的トレンチ調査C地区

斎　宮　跡※（多気郡明和町斎宮・竹川）

事 業 名　史跡現状変更

調査主体　明和町教育委員会

調査期間　昭和５６年５月１３日～昭和５７年３月１日

調査面積　7,936㎡

概　要

調査次数	調査地区	調査面積	調査期間	地籍・地番	所有者	備考
37－1	6AFC-M	2,520㎡	56. 5.13～ 56. 6.25	明和町斎宮字西前沖	日本経木工業	住宅開発に伴う緊急調査（トレンチ）D地区
37－2	6ADQ-R	27	56. 6. 2～ 56. 6.10	明和町斎宮字牛葉	個人	個人住宅に伴う緊急調査D地区

調査次数	調査地区	調査面積	調査期間	地籍・地番	所有者	備考
37－ 3	6AFC－F	46㎡	56. 6.24～ 56. 7. 6	明和町斎宮字西前沖	個人	個人住宅に伴う緊急調査D地区
37－ 4	6AFC－M	4,702	56. 7.17～ 56.12.25	明和町斎宮字西前沖	日本経木工業	住宅開発に伴う緊急調査D地区
37－ 5	6AFC－G	33	56. 7.20～ 56. 7.25	明和町斎宮字西前沖	個人	個人住宅に伴う緊急調査D地区
37－ 6	6ABD－A	32	56. 8.19～ 56. 8.29	明和町竹川字古里	個人	個人住宅に伴う緊急調査C地区
37－ 7	6AEC－M	188	56. 9.11～ 56.10. 2	明和町斎宮字苅刊	斎宮公民館	公民館建設に伴う緊急調査D地区
37－ 8	6ADR－P	20	56.11.11～ 56.11.16	明和町斎宮字木葉山	個人	個人住宅に伴う緊急調査D地区
37－ 9	6AGK－E	33	56.11.28～ 56.12. 9	明和町斎宮字東加座	個人	個人住宅に伴う緊急調査C地区
37－10	6AED－O	22	56.12.14～ 56.12.15	明和町斎宮字楽殿	個人	個人住宅に伴う緊急調査D地区
37－11	6ADN－O	18	57. 1.21～ 57. 1.26	明和町斎宮字内山	近畿日本鉄道	斎宮駅便所改築に伴う緊急調査E地区
37－12	6AFH－J	53	57. 1.26～ 57. 2. 6	明和町斎宮字西加座	個人	個人住宅に伴う緊急調査C地区
37－13	6AGK－F	242	57. 2. 3～ 57. 3. 1	明和町斎宮字東加座	個人	個人住宅に伴う緊急調査C地区

発シB遺跡△（多気郡明和町有爾中字発シ）

事業名　修成小学校建設

調査主体　明和町教育委員会

調査期間　昭和５７年３月１８日～昭和５７年３月２７日

調査面積　５６０㎡

概　要　有爾中集落の西方約２００ｍにあり、標高約５５ｍの丘陵斜面の山林にあたる。校舎、体育館、プールを含める造成予定地約１３,０００㎡に３５カ所

の試掘壙を設定した結果、約4,700㎡の範囲に古墳時代後期から奈良～平安時代の掘立柱建物跡・竪穴柱居跡・土壙が濃密に分布することが確認された。以上の結果に基き、昭和５７年度において、校舎等の位置の変更についての協議を経た上で、本調査を実施することとなった。

中新田遺跡※（伊勢市津村町白木字中新田）

事業名　県営圃場整備事業

調査主体　三重県教育委員会

調査期間　昭和５６年１１月２４日～昭和５６年１２月２５日

調査面積　2,０００㎡

概　　要　宮川右岸の河岸段丘上に位置し、全域が肥沃な黒ボクにおおわれたタバコ畑として利用されており、標高１９～２０ｍである。発掘区域は４カ所にまたがるが、検出遺構、遺物はすべて室町時代前期（１４世紀代）に比定しうるものである。塀跡１、掘立柱建物６棟、溝３条、土壙５基（土壙墓３を含）等を検出した。掘立柱建物は、そのほとんどが柱掘り方底部に川原石（土台石）をもつもので、中にはすでに土台石が地上に露出していたと考えられるものもあり、いわゆる掘立柱建物から礎石建物への過渡期として捉えられるものもある。また、一部掘立、一部は礎石というものが１棟みられる。出土遺物は土師器（鍋・小皿）、山茶椀、山皿が主流を占め、陶磁器は少ない。今後の整理過程で、一括遺物として認識できるものも多く、中世土器の編年資料として貴重である。

八幡山古墳（伊勢市岡本町八幡山）

事業名　キタムラ産業㈱団地

調査主体　伊勢市教育委員会

調査期間　昭和５６年４月２１日～昭和５６年５月１２日

調査面積　２５０㎡

概　　要　総開発面積約３８,０００㎡内に、八幡山古墳・八幡山南古墳・虎尾山古

墳（１～３号墳）の所在が確認されていたが、虎尾山古墳群については旧五二会ホテル及び忠魂碑のため消滅しており痕跡すら確認できなかった。

八幡山古墳は、当初径１８ｍ、高さ２ｍの円墳と推定され、天井石一枚が墳丘上に一枚放置されていた。調査の結果、高射砲設置のためことごとく破壊されており痕跡すら確認できなかった。

八幡山南古墳は、径８ｍ、高さ１.２ｍの円墳と推定されたが、調査の結果、自然地形であることが判明した。

東　山　遺　跡△（伊勢市東大淀町字東山）

事 業 名　北浜中学校講堂防音改築工事

調査主体　伊勢市教育委員会

調査期間　昭和５６年６月１日～昭和５６年６月２日

調査面積　７０㎡

概　　要　東大淀海岸段丘上（標高約３ｍ）にあり、東西約５００ｍにもおよぶ大遺跡であり、古墳時代～平安時代に至る集落跡と推定される。

今回の調査は、講堂敷地内（約８８５㎡）のみを対象とした試掘調査を実施した。

調査の結果、土師器少片の出土はあったものの、旧校舎等の基礎のため攪乱されており、遺構は検出されなかった。

殿 垣 外 遺 跡△（伊勢市西豊浜町１７７９番地）

事 業 名　防火水槽４０㎡級（耐震性）新設工事

調査主体　伊勢市教育委員会

調査期間　昭和５６年８月１８日

調査面積　６４㎡

概　　要　豊浜西小学校グランド内及び付近一帯に広がる飛鳥・奈良時代～鎌倉時代に至る複合遺跡で、昭和５５年８月の調査では、竪穴住居、掘立柱建物、井戸、溝、土壙等の多数の遺構と遺物が検出された。

今回の調査は、そのすぐ南側に位置するところであるが、旧家屋の基礎等でかなり攪乱されており、遺構、遺物は検出されなかった。

長尾谷近世墓△（伊勢市前山町字長尾谷）

事業名　丸紅㈱団地造成

調査主体　伊勢市教育委員会

調査期間　昭和５６年１０月７日～昭和５６年１１月１９日

調査面積　１２０㎡

概　　要　径８ｍ、高さ２.３ｍのほぼ円形を呈す墳丘をもち、墳丘上には１０～２０㎝前後の川原石がほぼ全面に敷かれていた。当初は小型円墳と推定したが、調査の結果、中世以降の塚であることが判明した。

厚さ５０㎝前後の積石を除去した後の盛土内には、何らの埋葬施設は検出できず、積石内に、永楽通宝(1)・寛永通宝(4)・無文銭(1)の計６個の古銭と、土師器、小皿がおよそ２０個体検出された。しかし、これらの遺物には集中性はみられなかった。

荘司端遺跡△（伊勢市有滝町字荘司端）

事業名　小規模排水対策特別事業

調査主体　伊勢市教育委員会

調査期間　昭和５６年１２月１１日

調査面積　４８㎡

概　　要　北に豊北漁港をひかえ、有滝集落の最北端にあたる標高１ｍの砂堆に立地する。４ｍ×２ｍの試掘壙４カ所の調査を実施したが、遺構・遺物は検出されなかった。なお、散布遺物のうち、室町時代の鍋が中心であるが、外城田川最下流では新発見の縄文土器片（称名寺式類似）が特筆される。

宮之前遺跡（伊勢市有滝町字宮之前）

事業名　小規模排水対策特別事業

調査主体　伊勢市教育委員会

調査期間　昭和５６年１２月１１日

調査面積　４８㎡

概　　要　標高1.5ｍの浜堤上に立地する室町時代以降の遺物散布地で、４ｍ×２ｍの試掘壙６カ所の調査を実施した。

調査の結果、耕作土が深く地山面までは約１ｍを測り、耕作土中には若干の遺物は包含していたが、地山面では遺構は検出されなかった。なお、当該調査地域は２０㎝削平されるのみで畑寄せ保存することとなった。

御蘭尾遺跡△（伊勢市有滝町字御蘭尾）

事業名　小規模排水対策特別事業

調査主体　伊勢市教育委員会

調査期間　昭和５６年１２月１０日

調査面積　９６㎡

概　　要　標高1.7ｍを測る浜堤上に立地する鎌倉時代以降の遺物散布地。試掘壙４ｍ×２ｍを１２カ所設定し、調査を実施した。

調査の結果、耕作土の下はすぐ地山であり、耕作土中に若干の遺物は包蔵されていたが、遺構は検出されなかった。

中島遺跡△（伊勢市有滝町字中島）

事業名　小規模排水対策特別事業

調査主体　伊勢市教育委員会

調査期間　昭和５６年１２月１０日

調査面積　６４㎡

概　　要　外城田川左岸、標高１ｍ前後の浜堤地に位置する鎌倉時代以降の遺物散布地である。排水路部分及び付近に４ｍ×２ｍの試掘壙を設定し調査を実施した。

調査の結果、耕作土の下はすぐ地山（青灰砂質土）で、遺構は検出されなか

った。なお、この地山は１ｍほど堆積しており、下は礫層である。

田 丸 城 遺 跡△（度会郡玉城町田丸）

事 業 名　町庁舎建設

調査主体　玉城町教育委員会

調査期間　昭和５６年１２月２８日

調査面積　１０㎡

概　　要　田丸城の創建は、南北朝時代に始まるが、天正３年（１５７５）織田信雄によって本丸、二の丸、北の丸を備えた堅固な城郭に修築された。今回の調査は、町庁舎建設に伴う取付道路拡幅により、東側内堀の東辺部の削平に先立って行なわれたものである。その結果、内濠東辺部の南北隅を確認するとともに、東辺部が約９０ｍであることが確認された。石垣の上部は、既に道路によりかなり削平されていたが、下部は保存状況の良好な部分があることが判り、その基底部と対岸の内濠基底部との幅は約１１ｍであった。なお、内濠と外濠を結ぶ濠が、昭和５５年度の庁舎建設前の調査で確認されているが、同濠と内濠との接続部は攪乱されていた。

東 畑 中 世 墓（度会郡度会町上久具字東畑）

事 業 名　県営農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業

調査主体　三重県教育委員会

調査期間　昭和５６年７月２２日～昭和５６年９月３０日

調査面積　３００㎡

概　　要　寺垣内遺跡の東隣に位置し、東側は谷筋をのぞむ段丘の東縁にあたり、標高約３５ｍであり、現状は桧の植山林という地目である。表土（腐植土）10～１５㎝を下げると約１５０㎡全面に配石がみられ、いわゆる石組墓を呈するもので、石の配置等より約６０基のブロック（埋葬単位）が考えられた。墓の個々のプランとしてはおよそ４パターン（正方形プラン・長方形プラン・円形プラン・不定形集石プラン）があり、川原石で囲むもの、板石を立てて区画す

るもの等、様々である。内部構造としては蔵骨器（土師器鍋・常滑・渥美産小壷・須恵器横瓶を利用したもの）を有するものと無いものに分れ、土壙墓はみられない。たゞ単に骨片を土中に埋め込んだ（木製容器の可能性もある）ものもみられる。時期的には室町時代中期（１５Ｃ）以降に造営されたものと思われるが、散在する五輪塔は一石造りで近世にまで下るものも含まれ、かなり長期間継続した墓群かも知れない。人骨片の鑑定結果によれば、火葬骨も少数含まれるが、土葬後に骨だけ後に拾い集めて埋納した改葬形式が多いと推定されている。

寺垣内遺跡（度会郡度会町上久具字寺垣内）

事業名　県営農林漁業用揮発油税財源見替農道整備事業

調査主体　三重県教育委員会

調査期間　昭和５６年７月２２日～昭和５６年９月３０日

調査面積　５００㎡

概　　要　宮川中流右岸の河岸段丘上に位置し、標高３０ｍ前後で東にやゝ低くなる茶畑に所在する。地元の伝承、『町史』によれば、この茶畑は棚橋にある大神宮法楽寺（蓮華寺）の末寺である清水寺（せいすいじ）（中世寺院）があったところと言われている。調査の結果、掘立柱建物５棟、溝、土壙等を検出したが、掘立柱建物はすべて棟方向を同一、あるいは直交を呈し、同時期の存立が考えられるものである。なお、建物の柱掘り方の底に扁平な川原石が据えられているものもある。出土遺物は土師器（鍋・小皿・羽釜）が量的にも多く主流を占め、他は陶器（常滑甕・鉢・鉄釉天目茶椀・灰釉香炉など）、磁器（青磁椀・染付椀）類である。山茶椀・山皿は極少である。時期としては室町時代中期（１５世紀代）頃と考えられるが、先の清水寺跡との関わり等は今後の究明に期す処が多い。

下之郷６号墳（志摩郡磯部町大字下之郷）

事業名　団体営圃場整備事業

調査主体　磯部町教育委員会

調査期間　昭和５６年１０月１６日～昭和５６年１０月２０日

調査面積　４７㎡

概　　要　南に的矢湾が広がる小丘陵上に点在する下之郷古墳群の最南端に所在した古墳で、近くには須恵器の蓋杯等が出土したアナザメ古墳がある。今回調査した６号古墳はかなり以前に南側を削平されており、上部についても畑地として削平されマウンドや天井石等は残存しておらず、その全容は明らかにならなかったが、北側と西側に周溝と思われる溝跡が検出された。石室の残存状況は底石２段ていどで、巾は約２ｍ長さ約２ｍであった。石室も南側が既に削られているが、残存状況からするとわり合いに大きく、このあたりの古墳としてはかなり規模の大きなものであったと思われる。遺物は金環・碧玉製管玉・須恵器の蓋杯・高杯・提瓶・土師器の高杯、それに鉄鏃などが出土した。

侍 岡 中 世 墓※（志摩郡磯部町上之郷字別所）

事 業 名　墓地造成（墓地組合）

調査主体　磯部町教育委員会

調査期間　昭和５６年７月２５日～昭和５６年８月３１日

調査面積　４４３㎡

概　　要　伊雑宮の所在する上之郷集落の北方、小高い西に面した丘陵斜面に位置する。当遺跡の下方は現在の墓地として利用され、この共同墓地は俗に侍岡と呼ばれているところである。調査前、すでに五輪塔の散在、集石、配石の一群がみられたが、表土（５～１５㎝）を除去すると、長方形、あるいは円形状に川原石を集石したもの、川原石を方形に外画のみ画したもの等、いわゆる上部構造としては全体的に石組墓を呈していた。埋葬形態としてはその大部分が、木棺、あるいは桶（座棺）による土壙墓（直葬）であり、副葬品としては土師小皿、刀子などが検出された。棺底とも考えられる位置に、黒地に朱塗り（扇の文様）の漆製品の残片が検出された土壙もある。こうした土壙墓形態の他に、蔵骨器（骨は残っていないが）として土師器鍋を利用している火葬墓？形態も

検出された。鍋の中には体部内面に墨書による梵字がみられるものもある。墓の造営時期は土師器の形態、型式よりみて、南北朝～室町時代初頭頃（１４Ｃ代）と考えられる。

風呂ケ谷１号墳（上野市四十九町字風呂ケ谷）

事 業 名　中部電力上野営業所建設

調査主体　上野市遺跡調査会

調査期間　昭和５６年５月１５日

調査面積　６０㎡

概　　要　当該事業の実施にあたり、久米山風呂ケ谷１号墳の周溝想定部分が敷地境界となるため、発掘調査を事業地内に限り実施した。調査区内からは、明確な周溝そのものを検出しえなかったが、堆積土層の状況は墳丘側から地山への整形加工、墳丘築成後まもない流入土の堆積を窺わせる状況が認められ、尾根上方側への地山削平加工あるいは周溝状凹部の存在を窺わせる。

出土遺物には、須恵器・土師器・陶器・磁器・砥石などがある。

四 十 九 遺 跡△（上野市四十九字南山田）

事 業 名　団体営圃場整備事業

調査主体　上野市教育委員会

調査期間　昭和５７年３月１６日

調査面積　約８０㎡

概　　要　丘陵、県道、鉄道、水田と徐々に西に傾斜をもつ湿田地域で、古墳時代を中心とする遺物の散布がみられる遺跡である。

整備工事で削平される部分、及び水路部分について調査を実施した。東に高い水田部分においては、約２０㎝の耕土下はすぐ赤褐色の地山であり、遺構、遺物、同包含層は認められなかった。やや西より低地においては、昭和３０年代における瓦用粘土取りで約半数の水田が攪乱されており遺構・遺物の検出には至らなかった。また、未攪乱の水田においては、地山は２５～７５㎝とさま

ざまであるが、耕土下は粘土層と共通しており、包含層、遺構は検出されなかった。試掘壙全般にわたり、摩滅した小片の遺物が認められたが、ほとんどが耕土中であり、丘陵上からの流入による散布と思われる。

喜　春　遺　跡（上野市佐那具町字喜春）

事 業 名　民間宅地造成

調査主体　上野市教育委員会

調査期間　昭和５６年６月～昭和５６年１０月

調査面積　1,０００㎡

概　　要　事業地内には、喜春東館他中世城館址及び弥生時代後期以降の出土遺物を検出する遺跡が、全面にひろがる。調査は、試掘調査及び喜春東館部を中心に実施し、喜春東館北土塁・北濠部等を検出した。出土遺物には、弥生式土器・土師器・須恵器・白鳳期古瓦・陶器・磁器・木器・漆器・木製品・石製品・鉄製品・石塔類等がみられた。

才　良　遺　跡△（上野市才良）

事 業 名　丸山中学校屋体育館建設

調査主体　上野市教育委員会

調査期間　昭和５６年６月２２日～昭和５６年６月２４日

調査面積　約５０㎡

概　　要　現講堂周辺について、３ｍ×５ｍトレンチ３本、２ｍ×８ｍトレンチ１本計約６０㎡で遺構の有無、遺物の包含状態を調査した。結果は講堂建設時（昭和２７）に周辺が相当攪乱されており、遺構の検出には及ばなかった。遺物については、弥生末～中世にわたっているが、この遺跡の中核になるべき才良寺に関する瓦の出土がほとんどなく、どの時期の遺物についても摩滅した小片が少量出土したのみである。またひきつづき校舎建築が行われる予定であり、事前に２ｍ×１００ｍのトレンチ調査を予定している。

下　郡　遺　跡（上野市下郡）

事 業 名　一級河川木津川改修工事事業

調査主体　三重県教育委員会

調査期間　昭和５６年１０月１９日～昭和５７年２月２７日

調査面積　1,２００㎡

概　　要　昨年度は、調査区南端で鍋や錠前等を出土した東西方向の中世の大溝を検出した。今年度はこの南東のＤ区で、やはり同時代（１５～１６世紀）の大溝が南北に２０ｍ程延長することを確認した。この大溝は、かき上げ式の薬研堀で、幅約５ｍ、深さ約1.６ｍを測る。大溝の底や還元層上面の絶対高は、昨年の大溝とほぼ等しい。溝内から釘を打った建築部材らしい木や、漆製品片等が出土した。

Ａ区では、石組井戸１基が認められた。深さ約３ｍで框の上に川原石を乱石積している。Ｂ区では井戸状の石組を検出したが浅く、性格不明である。このほか、Ａ・Ｂ両区で性格不明の石組を検出した。以上全ての遺構は中～近世に属する。

上　　野　　城※（上野市丸之内）

事 業 名　上野城跡石垣修理

調査主体　上野市教育委員会

調査期間　昭和５６年８月３１日～昭和５６年９月８日

調査面積

概　　要　石垣積み替え工事に先立つ地表以下の根石等の調査である。現在では道路（市道）、学校用地として利用されている地点が、古図によると内濠である旨が示されている。積みかえるには現石垣の根石の状況把握はむろんのこと、附属施設の犬走り様遺構と内濠石垣の構造の解明が必要であり、調査に至った。

その結果、古図にある石垣はその痕跡がなく、古図は当時の計画図であったのか。また、現石垣の根石の状況は南に深く（６石が地中）なっており地山がひじようにしっかりしているためか胴木の使用は認められなかった。また、北

におれている石垣については、地山が浅いためか地中には１石しかなく、胴木も使用されていない状態である。胴木なし、及び根石の浅さから地盤の耐力性について、５７年度以降でボーリング調査等を予定している。

西明寺遺跡※（上野市西明寺）

事業名　重要遺跡確認調査

調査主体　上野市教育委員会

調査期間　昭和５６年１１月１６日～昭和５７年３月３１日

調査面積　約２,０００㎡

概　　要　国・県の補助をうけ、国史跡伊賀国分寺跡、同尼寺跡（長楽山廃寺）にはさまれる地域で約２,０００㎡の緊急発掘調査を実施した。

同地域北よりの調査区で奈良末～平安初期と思われる２間×４間の掘立が２棟、３間×３間の総柱掘立が１棟、２間×３間で南面に庇がつく総柱掘立が１棟検出された。いずれも方位を同一にし、かつ国分寺伽藍中軸線（想定）と平行している。また同方位をもつ数条の溝も検出された。いずれの遺構も方位面から考えれば、国分寺の関連遺構であることがうかがえる。

馬場遺跡※（上野市喰代）

事業名　県営圃場整備事業

調査主体　三重県教育委員会

調査期間　昭和５６年８月３日～昭和５６年９月３０日

調査面積　約１,２００㎡

概　　要　久米川上流左岸の標高２４３ｍ～２４８ｍの段丘上の水田に位置する。高所からＡ・Ｂ・Ｃ区と称する。Ａ区は面積約６００㎡あり、鎌倉時代の３間×４間の掘立柱建物１棟、溝７条、土壙１基を検出し、瓦器、土師器、須恵器、天目茶椀、青白磁、行基焼、陶磁器などの遺物を確認した。Ｂ区では２ｍ×４ｍグリッドを数カ所設定して、少量の土器片とピット３個・溝１条を確認した。Ｃ区は面積約４５０㎡あり、２×４間以上の掘立柱建物１棟を検出した。

なお、遺物はＡ区と同様である。

蓮池代遺跡※（上野市蓮池）

事業名　県営圃場整備事業

調査主体　三重県教育委員会

調査期間　昭和５６年１０月１日～昭和５７年１月１５日

調査面積　約２,７００㎡

概　　要　久米川、高山川の合流点付近の標高２１７～２２０ｍの水田及び畑に位置する。調査の結果、奈良～平安時代にかけての掘立柱建物跡１０棟と竪穴住居跡６棟を検出した。このうち、７棟の掘立柱建物は、柱穴の掘方が一辺約８０㎝の方形の大型で、中には直径約３０㎝の柱根が残存したり、さらにその下に根石や礎板が良好な状態を保っているものもあった。なお、各建物の配置には、計画性がうかがえる。遺構では、他に方形の石組井戸、溝、池状遺構、土壙などが検出された。遺物では、土師器、須恵器が圧倒的に多く、前者には杯、甕、壷、鍋など、後者には杯、甕、鉢、皿などがある。共に墨書土器が何点かある。他に、瓦器、青白磁、製塩土器、陶磁器、土師質の円面硯や獣脚があり、緑釉も二点出土している。

老ノ木遺跡※△（上野市猪田字老ノ木）

事業名　県営圃場整備事業

調査主体　三重県教育委員会

調査期間　昭和５６年１１月４日～昭和５６年１１月５日

調査面積　８０㎡

概　　要　事業に先立っての分布調査で、遺物の散布が認められた4,000㎡の範囲のうち、水路掘削部分について、１０カ所の２ｍ×４ｍの試掘坑を設定して調査を実施した。各試掘坑からは土師器、須恵器、中世陶器の細片が各少量出土した程度で、明確な包含層や遺構は認められなかった。遺跡の中心はここより東の範囲にあると思われる。

赤 目 檀 遺 跡（名張市赤目町檀字前垣内）

事 業 名　赤目保育所改築

調査主体　名張市遺跡調査会

調査期間　昭和５６年５月１５日～昭和５６年６月１５日

調査面積　約３００㎡

概　　要　赤目檀遺跡は、名張盆地南部の滝川右岸に広がる低い段丘上に位置する遺物散布地で、縄文時代から中世に至る各時期の遺物散布がみられる。今回の調査では、横穴式石室をもつ大垣内古墳１基と掘立柱建物１棟を検出した。大垣内古墳は、石室の基底部の石組が一部残るだけであるが、玄室長約3.7ｍ、幅1.1ｍを計る。玄室内には、溶結凝灰岩の板材で組成された内法長1.5ｍ、幅0.3ｍの石棺１基がある。出土遺物には、須恵器蓋杯４点、高杯４点、土師椀１点があった。掘立柱建物は、４間（9.2ｍ）×３間（7.3ｍ）の建物で、身舎２間×２間に、南・北・東の三面に廂をもつものと考えられる。出土遺物は、瓦器椀、瓦器皿の破片多数のほか、青磁、白磁の破片も出土している。このほか、大垣内古墳埋土中より、円面硯の破片も検出している。

原　出　遺　跡※（名張市蔵持町原出字原の前・字草福）

事 業 名　団体営圃場整備事業

調査主体　名張市教育委員会

調査期間　昭和５６年６月２９日～昭和５６年９月１５日

調査面積　2,０００㎡

概　　要　名張盆地北東部の名張川が東から北に大きく彎曲する右岸の高位段丘上平担地に位置する。試掘調査によって近鉄大阪線西側沿い南側のＡ地区、北側Ｂ地区に遺構があり面調査した。Ａ地区からは径２０～４０㎝の柱穴を多数検出し、南東部に２間×３間以上の掘立柱建物が建つ。遺物は平安時代中～後期の土器が出土した。Ｂ地区南にはＬ字形にまがる溝があり内側に掘立柱建物跡３棟を検出した。北側の溝からは瓦器とともに鉄滓が出土し周囲に２間×３間総柱の建物が２棟、２間×５間の建物を１棟検出した。遺物は瓦器・土師器

をはじめとして青磁、陶器、天目、古銭等があり、鎌倉時代末から室町時代につづくものである。原出は正応五年三月の「沙弥西仏畠地渡状」に「簗瀬御領内、原光明寺」とあり、原が原出のことと推定され光明寺と集落が所在したと考えられている。

平尾奥開遺跡△（名張市夏見字鴻之巣、蔵持町芝出字小谷）

事業名　名張中央東土地区画整理事業

調査主体　名張市遺跡調査会

調査期間　昭和５６年5月１１日～昭和５６年6月9日

調査面積　約８００㎡

概　　要　名張市の中央部に位置する男山より西に派生する丘陵地で、江戸末期より用水路が引かれ低位台地は水田として利用されている。昭和５３年１２月実施した遺跡分布調査で、約9万㎡に及ぶ遺物散布が認められたため今回範囲確認のための試掘調査を実施したものである。調査の結果A地区（夏見鴻之巣）では、約10,000㎡の範囲に古墳時代前期及び奈良時代の建物を中心とした遺構の所在の確認と、縄文土器から中世瓦器に至る遺物を検出した。B地区（蔵持町芝出小谷）では、約2,800㎡の範囲に、中世土器の濃密な出土と、遺構の所在を確認した。この結果A地区を鴻之巣遺跡、B地区を小谷遺跡とし、昭和５７年度から3カ年の計画で発掘調査を実施する予定である。

山出遺跡※（阿山郡大山田村真泥字山出）

事業名　県営圃場整備

調査主体　三重県教育委員会

調査期間　昭和５６年１０月１２日～昭和５６年１１月２０日

調査面積　2,０００㎡

概　　要　服部川右岸の標高約１９０ｍの丘陵上にあり、現状は水田である。昨年度の試掘調査により大半は現状保存としたが、削平部分について調査を実施した。その結果、柱穴多数、溝３、土壙２、火葬土壙２を確認したが、柱穴は

掘立柱建物としてはまとまりを持たない。また、火葬土壙は、長さ1.3m、巾80cm、長さ1.4m巾69cmの長方形であるが、少量の焼土が出土したのみであった。

遺物は全体に少量で、古墳時代の土師器、鎌倉時代の羽釜・瓦器がある。遺構と遺物の状況からみて、遺跡の周辺部に当るものと思われる。

野　中　城※（阿山郡大山田村阿波）

事業名　県営圃場整備事業

調査主体　三重県教育委員会

調査期間　昭和56年6月8日～昭和56年6月20日

調査面積　200㎡

概　要　服部川左岸の標高約255mの台地上にあり、東西約50m、南北約65mの範囲が、周辺の水田より約1～2mの高まりを呈している。高まりの周囲には、濠跡と推定される幅約4～5mの細長い水田が部分的に残っている。

調査はこの濠跡推定地区のうち、西南隅を除く3カ所について実施し、それぞれ幅約5～6m、深さ1～2mの濠跡を確認した。

遺物は、室町時代の土師器・陶磁器が少量出土したにとどまった。

沢　遺　跡※△（阿山郡大山田村下阿波）

事業名　県営圃場整備事業

調査主体　三重県教育委員会

調査期間　昭和56年6月8日～昭和56年6月9日

調査面積　88㎡

概　要　服部川南岸の河岸段丘上に位置し、現状は水田と畑地である。トレンチ11カ所を設定し、地表面から約30cm以下に遺物包含層と遺構が認められた。

遺構は、鎌倉時代頃の掘立柱建物と溝跡及び古墳時代の土壙若干を検出したが、水路部分は遺構が稀薄であり、他は工事削平面を浅くすることとした。

三　谷　遺　跡※△（阿山郡大山田村広瀬字三谷前）

事 業 名　県営圃場整備

調査主体　三重県教育委員会

調査期間　昭和５６年5月１０日～昭和５６年5月１５日

調査面積　１００㎡

概　　要　服部川右岸の標高約２３０ｍの低位河岸段丘にあり、現状は水田である。トレンチ１７カ所を設定した結果、表土下約４０～１７０㎝に遺物包含層があり、ピット、土壙、配石遺構を確認した。遺物には奈良～平安時代の土師器、須恵器、製塩土器、鎌倉～室町時代の瓦器、陶器がある。遺構及び包含層の深さを勘案して、遺構の保存に留意することを条件として工事を認めたが、当遺跡内を横断する県営農林漁業揮発油税財源見替農道整備事業については、別途調査を実施した。

三　谷　遺　跡（阿山郡大山田村大字広瀬字三谷前）

事 業 名　県営農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業

調査主体　三重県教育委員会

調査期間　昭和５６年7月２７日～昭和５６年１０月１７日

調査面積　1,８６０㎡

概　　要　服部川右岸の低位河岸段丘上の標高２３０ｍほどに位置する。総面積４0,０００㎡にのぼる広大な遺跡である。今回の発掘調査は農道計画部分のみのため、全容は明らかでないが、調査の結果、奈良時代後半から平安時代前半の集落跡が検出された。その遺構は、竪穴住居跡１１棟、掘立柱建物３棟、土壙等である。竪穴住居跡は一辺３～４ｍの方形で、６ｍ×８ｍの規模をもつものもある。いずれも壁東辺、北辺にカマドをもつ。出土遺物は、土師器（杯、皿、高杯、甕等）、須恵器（杯、壷、甕等）、製塩土器、鉄製紡錘車、鞴の羽口、鉄鏃等である。調査範囲以外の遺跡部分については、試掘調査からみると、古墳時代以降中世に至る集落跡の所在が推定される。ほ場整備の工事が行われはしたが、その水田下に保存されることとなった。

屋 敷 前 遺 跡△（阿山郡大山田村出後）

事 業 名　砂利採取事業

調査主体　大山田村教育委員会

調査期間　昭和５６年１０月１１日

調査面積　１００㎡

概　　要　服部川左岸の河岸段丘上に位置し、標高２０２ｍ前後を測る。圃場整備後の3,000㎡の水田３枚に、２ｍ×４ｍのグリッドを１２カ所設定した。その結果、須恵器、土師器、瓦器、天目茶椀、陶磁器の破片をほぼすべてのグリッドで少量認めた。層位は、耕作土として黒灰色土が１０～３０㎝の厚みがあり、この下に地山の褐色砂礫層がみられた。なお、遺構は何も確認できなかった。

福　　地　　城（阿山郡伊賀町柘植町）

事 業 名　名阪国道側道整備事業

調査主体　三重県教育委員会

調査期間　昭和５６年１０月２６日～昭和５６年１１月３０日

調査面積　３００㎡

概　　要　霊山北麓の標高約２６０ｍの丘陵先端部に築かれた、中城城館であり、遺構の規模・保存状況の良好さから主郭部分のみ県史跡となっている。今回の調査は、主郭をとり囲む郭群のうち、南東部に位置する郭の一部を発掘した。調査の結果、石列２・石垣２・石敷及び建物の礎石を推定される遺構を検出した。遺物には、土師器・瓦質土器・陶器・磁器の他古銭がある。このうち、伊賀焼擂鉢は、個体数にしても十数個体出土しており、他の器種に比べて多い。遺物の年代は、１６世紀を中心とする。

下 河 原 遺 跡△（名賀郡青山町北山）

事 業 名　臨時石炭鉱害復旧事業

調査主体　青山町教育委員会

調査期間　昭和５６年１０月４日

調査面積　１７６㎡

概　　要　木津川右岸の河岸段丘及び山麓地の水田に立地し、標高２３５～２５０ｍを測る。２ｍ×２ｍのグリッドを１４カ所、２ｍ×４ｍのグリッドを１５カ所設定して遺構、遺物の確認を行なった。その結果、少量ながら、須恵器、土師器、瓦器、陶磁器の破片を１２カ所で認めたが、明確な遺物包含層を確認できなかった。ただ、グリッド№１９ではpit ４個、土壙１基、溝１条が検出され、土壙上面に瓦器が出土していた。グリッドＡでは、溝が２条、同Ｂではpit ２個が認められた。

塚　原　古　墳（名賀郡青山町羽根字塚原）

事 業 名　広域市町村道羽根塚原線建設

調査主体　青山町教育委員会

調査期間　昭和５６年８月２日～昭和５６年８月３１日

調査面積　７００㎡

概　　要　木津川右岸の河岸段丘に位置し、道路予定地区の幅６ｍ、延長約100ｍの範囲を発掘調査した。その結果、盛土が既に削平された直径約１３ｍの円墳１基を確認した。調査が路線幅に限定されたため、周溝の約1/2を検出したに留まったが、幅約２ｍで墳丘側斜面に列石が認められた。内部主体は、西に開口する横穴式石室で天井石と側壁の大半が崩落していた。石室は全長4.4ｍ、奥壁幅1.3ｍで、幅0.6ｍの羨道部には側壁を持たない。出土遺物は、玄室内の敷石上面に散在し、須恵器杯蓋４、杯身３、高杯２、提瓶１、土師器椀３、鉄製刀子２、鉄鏃５があり、本墳の築造が６世紀後半で、７世紀前半に追葬が行なわれたことが明らかとなった。なお、本墳は調査後盛土をした上で、道路建設工事が実施された。

向　井　遺　跡（尾鷲市大字向井字村ノ内）

事 業 名　都市計画道路茶地岡向井線改良工事

調査主体　尾鷲市遺跡調査会

調査期間　昭和５６年６月１日～昭和５６年７月２６日

調査面積　５３０㎡

概　　要　標高約５ｍの隆起扇状地の先端部にあり、尾鷲湾の南側にあたる。昭和５２年度の第１次調査に引き続く今回の第２次調査によって、土壙１１、ピット６２を確認した。各遺構は散在状態を示しているが、遺物にはみるべきものが多い。すなわち、縄文時代早期末葉の条痕文土器が主体となり、形式的には粕畑式、上の山式、上の山・入海Ⅰ式中間、入海Ⅰ式、入海Ⅱ式、石山式（曽根式）が認められた。このほか弥生土器、室町時代の土師器鍋、陶器がある。石器類も豊富に出土し、石鏃、スクレーパー、石錐、刃部磨製石斧、凹石、打製石斧、磨石、敲石、礫器などがある。

津ノ森遺跡※（熊野市有馬町津ノ森ほか）

事業名　個人住宅

調査主体　熊野市教育委員会

調査期間　昭和５６年７月２７日～昭和５６年８月２３日

調査面積　２００㎡

概　　要　津ノ森遺跡は、標高５～１２ｍほどの丘陵及び沖積地に立地する南紀地方屈指の遺跡である。今年度の調査は、遺跡の南西部にあたる標高６ｍ前後の沖積地で、Ｃ・Ｄ地区の２ケ所で行なった。Ｃ地区では、弥生土器・古式土師器を出土する土壙状の落ちこみを１基検出した。Ｄ地区では、表土下に神社地に使用されたと思われる石敷を検出。この下層で弥生時代後期から鎌倉時代の遺物を出土したが、層序は非層位的である。遺物は、叩き目をもつ甕・高杯・鉢・ミニチュア土器、須恵器杯、勾玉・管玉・有孔円板などがある。これらの遺物は、南紀地方の弥生時代から古墳時代を考えるうえで、重要な遺物となるであろう。

高　岡　遺　跡※（南牟婁郡紀宝町高岡）

事 業 名　県営圃場整備事業

調査主体　三重県教育委員会

調査期間　昭和５６年１２月１日～昭和５６年１２月４日

調査面積　１７８㎡

概　　要　三重県境を流れる新宮川の支流相野谷川の河岸段丘上にある弥生～古墳時代の遺跡で、これまでに高杯脚部等の破片が採集されていた。今回の調査は排水路部分のみの部分的な調査であり、ピットや土壙が検出されたが、地山面も地表下浅く、出土遺物もほとんどなく、時期のわかるまとまった遺構はなかった。

Ⅳ　調査結果の公開

1.　三重県埋蔵文化財展の開催

昭和４０年度以後、三重県教育委員会が実施している埋蔵文化財の発掘調査は約４６０件あり、出土遺物は整理箱で約１4,０００箱に達している。これらの膨大な出土遺物のうち、各時代の土器、石器、木器、金属器の代表的な遺物約２００点を系統的に展示し、文化財保護思想の普及をはかるために関係機関の協力のもとに本年度から公開展示を実施した。なお、展示期間中に随時展示品説明を行なうとともに、参観者のアンケート調査を行なったが、こうした展示会の実施と、恒久的な展示施設を望む多くの県民の声が寄せられた。

〔三重県埋蔵文化財展開催要項〕

1　趣　旨

三重県教育委員会が実施した発掘調査によって出土した各時代の土器、鉄製品、木製品を中心に代表的な遺物２００点余を展示し、埋蔵文化財保護思想の高揚をはかる。

2　主催・協賛

(1)　主催　　三重県教育委員会

(2)　協賛　　松阪市、飯南町、飯高町、多気町、明和町、大台町、勢和村、宮川村各教育委員会

3　期　間

昭和５６年９月４日（金）～９月８日（火）

4　場　所

三交百貨店催事場（松阪駅前）

5　内　容

(1)　展示遺物

展示品	数量	出土遺物	保管者等
縄文土器	3	蛇亀橋遺跡（嬉野町）	県教委
〃	1	五佐奈遺跡（多気町）	〃
〃	2	東庄内遺跡（鈴鹿市）	〃
縄文土版	1	西出遺跡（明和町）	〃
弥生土器	5	中ノ庄遺跡（三雲村）	〃
〃	5	納所遺跡（津市）	〃
〃	6	貝塚遺跡（三雲村）	〃
須恵器	2	神前山古墳（明和町）	町教委
須恵器	4	八重田１６号墳（松阪市）	市教委
馬、人物埴輪	5	中ノ庄遺跡（三雲村）	県教委
円筒埴輪	2	高田２号墳（松阪市）	市教委
家形埴輪	1	上出遺跡（松阪市）	〃
鶏形埴輪	1	藤谷古窯跡（津市）	〃
画文帯神獣鏡他	２５	茶臼山古墳（亀山市）	県教委
内行花文鏡他１	2	茶臼山古墳（松阪市）	名古屋大学
変形四獣鏡他	3	大塚山古墳（松阪市）	佐久米町
獣帯鏡	1	木下古墳（亀山市）	県教委
碧玉製石製品	3	天花寺（嬉野町）	名古屋市博物館
子持勾玉	1	上村遺跡（津市）	市教委
二神二獣鏡他	２２	八重田１号墳（松阪市）	〃
須恵器、土師器他	４２	大塚古墳（安濃町）	県教委
土師器、鉄製品他	３５	河田６号墳（多気町）	町教委
木製農具	7	北堀池遺跡（上野市）	県教委
土師器	5	カウジデン遺跡（多気町）	〃
緑釉陶器他	１０	東裏遺跡（多気町）	〃
土師器、斎串	１８	五佐奈遺跡（多気町）	〃

(2) 写真及び解説パネル

発掘遺跡写真

時代説明　　約５０点

埋蔵文化財展の開催日時と入場者数

月　日	曜　日	時　間	一般入場者数	来　賓　者
9月4日	金	10:15～18:00	868	36
9月5日	土	10:00～18:00	1.525	32
9月6日	日	10:00～18:00	3.017	41
9月7日	月	10:00～18:00	874	19
9月8日	火	10:00～17:00	662	11
計			6.946	139

2. 発掘遺跡現地説明会の開催

発掘調査の途中あるいは終了時には、地域の人々に対し、文化財保護について理解を深めて頂くため、現地説明会を開催し、調査結果について報告を行っている。三重の文化財と自然を守る会等の協力を得て、多数の方が参加された。今年度は県関係14件、市町村関係7件があった。

遺　跡　名	所　在　地	主　催　者	開催日	参加者数
男山古墳群	名張市夏見	市教育委員会、市遺跡調査会	56. 4. 19	60人
斎宮跡（第36次）	多気郡明和町斎宮	県教育委員会	56. 6. 14	150
赤目檀遺跡	名張市赤目	市教育委員会、市遺跡調査会	56. 6. 21	80
蛇亀橋遺跡	一志郡嬉野町焼野	県教育委員会	56. 7. 11	60
斎宮跡（第38次）	多気郡明和町斎宮	〃	56. 8. 1	130
侍岡中世墓	志摩郡磯部町	町教育委員会	56. 8. 24	60
西高山古墳群	鈴鹿市郡山町	市遺跡調査会	56. 8. 16	200
塚原古墳	名賀郡青山町塚原	町教育委員会	56. 8. 29	70
斎宮跡（第37－4次）	多気郡明和町斎宮	県教育委員会	56. 9. 6	100
寺垣内遺跡	度会郡度会町上久具	〃	56. 9. 15	40
原出遺跡	名張市蔵持町	市教育委員会、市遺跡調査会	56. 9. 13	120
天王平遺跡	桑名郡多度町小山	県教育委員会	56. 9. 13	100
三谷遺跡	阿山郡大山田村三谷	〃	56. 10. 17	40
斎宮跡（第39次）	多気郡明和町斎宮	〃	56. 11. 3	250
福地城	阿山郡伊賀町柘植町	〃	56. 11. 29	20

遺跡名	所在地	主催者	開催日	参加者数
斎宮跡（第37－4次）	多気郡明和町斎宮	県教育委員会	56. 12. 6	130人
蓮池代遺跡	上野市蓮池	〃	57. 1. 10	80
斎宮跡（第40次）	多気郡明和町斎宮	〃	57. 1. 17	110
西明寺遺跡	上野市西明寺	市教育委員会	57. 2. 6	50
天王平遺跡	桑名郡多度町小山	県教育委員会	57. 3. 28	70
山ノ下古墳群	安芸郡安濃町戸島	〃	57. 3. 28	50

3. 保管遺物等の貸出し・写真等の掲載許可

教育委員会が保管している県内各地から出土した遺物の展示会等への貸出し、写真撮影、掲載等については、一定の手続きのもとに応じている。

申請者	目的	貸出品	期間	許可日
柘植中学校	社会科教材	的場遺跡 スライド 20枚	56. 5.12 ～56. 5.19	56. 5.12
伊勢市教育委員会	文化財めぐり資料	中楽山遺跡 野垣外遺跡 スライド 7枚	56. 5.15 ～56. 5.30	56. 5.13
大成小学校	社会科教材	納所遺跡 弥生土器外 21点	56. 5.23	56. 5.22
磯部小学校	社会科教材	大塚古墳 8ミリフイルム 1巻	56. 7. 8 ～56. 7.15	56. 7. 6
亀山市教育委員会	三重県移動博物館	茶臼山古墳 画文帯神獣鏡2点	56. 7. 8 ～56. 7.15	56. 6.29
桑名市立文化美術館	特別展 「古代のロマンをさぐる桑名の考古資料展」	七和2号窯 灰釉陶器外 23点 山王貝塚 貝殻 1袋	56. 6.29 ～56. 8.28	56. 6.29
浜松市博物館	企画展 「採集から稲作へ」	中ノ庄遺跡 納所遺跡 弥生土器外 16点	56. 9.15 ～56.12.25	56. 7.22
愛知県陶磁資料館	特別展 「猿投窯ー須恵器・器から中世陶へー」	高向遺跡 緑釉陶器 1点 川原井遺跡 灰釉陶器 1点 東裏遺跡 緑釉風字硯 1点	56. 9.25 ～56.12.10	56. 8.25

申請者	目的	貸出品	期間	許可日
(財)元興寺文化財研究所	特別展 「出土遺物にみる緑釉」展	高向B遺跡 緑釉陶器 4点	56.10.20 ～56.11.14	56.10.13
多度町教育委員会	町民文化祭	天王平遺跡 須恵器外 15点	56.10.27 ～56.11. 5	56.10.19
上野市下郡公民館	開館6周年記念	下郡遺跡 天目茶椀外 58点	56.10.27 ～56.10.28	56.10.26
皇学館大学考古学研究会	倉陵祭展示	大藪遺跡 弥生土器 5点 高向遺跡 緑釉陶器 4点	56.10.30 ～56.11. 4	56.10.27
度会町教育委員会	町民文化祭	東畑中世墓 蔵骨器外 8点	56.11.11 ～56.11.17	56.11.10
松阪工業高校	文化祭	河田古墳群 須恵器外 14点	56.11.14 ～56.11.18	56.11.13
名古屋市博物館	特別展 「祈りの歴史 ― 絵馬」	カウジデン遺跡 土馬 1点	57. 2.23 ～57. 4.23	57. 1.26
大阪市立博物館	特別展 「伊賀上野の文化財」	北堀池遺跡 木製品外 11点 清水北遺跡 縄文土器外 4点 西谷遺跡 縄文土器 3点 下郡遺跡 天目茶椀外 2点 神ノ木館 摺鉢 1点 福地氏城 摺鉢 2点 上寺遺跡外 瓦器椀外 20点 写真パネル 6枚	57. 3. 6 ～57. 4.24	57. 3. 1
亀山市教育委員会	郷土資料展示会	木下古墳出土品一括	57. 3.10 ～57. 4.10	57. 3. 5
愛知県陶磁資料館	「常設部門展―猿投窯」	七和2号窯 灰釉陶器外 14点	57. 3.29 ～57.10.16	57. 3.24

申請者	掲載書名	掲載資料	許可日
紅村弘	東海先史文化の諸段階資料編Ⅲ	納所遺跡出土品 30点	56. 7.22
浜松市博物館	展示図録・ポスター	中ノ庄遺跡・納所遺跡 弥生土器外 16点	56. 7.22
講談社	縄文土器大成第2巻	東庄内B遺跡 台付深鉢 1点	56. 4.21
講談社	縄文土器大成第3巻	東庄内B遺跡 深鉢 1点	56. 8.27
大阪市立博物館	展示目録	北堀池遺跡外出土品 一括	57. 3. 1

〔付１〕　埋蔵文化財関係通知

庁保記第１７号
昭和５６年７月２４日

各都道府県教育委員会教育長殿

文化庁次長　　山中昌裕

埋蔵文化財の保護と発掘調査の円滑化について（通知）

このことについては、貴教育委員会その他関係の機関の御努力により、年々改善が図られているところでありますが、なお地域により問題が残されている場合もみうけられますので、埋蔵文化財の保護の重要性にかんがみ、地域住民や関係者の十分な理解を得るよう努めるなど、一層の改善を図る必要があると考えられます。

ついては、特に下記の事項について御留意の上、埋蔵文化財保護の施策の迅速適正化について特段の御配慮をお願いします。

おって、貴管下各市町村教育委員会に対し、この趣旨の徹底を図られるとともに、適切な指導をお願いします。

記

1. 遺跡地図等の整備と発掘調査体制の充実

教育委員会は、遺跡地図等の整備及び発掘調査体制の充実について、従前から重要な課題として取り組まれ、幾多の改善措置がとられてきたところであるが、更に埋蔵文化財の保護の施策の迅速適正な実施を確保するため、次の措置に配慮されたい。

(1) 地域住民や事業者に埋蔵文化財包蔵地の所在状況を周知徹底し正しい理解と協力を得るため、遺跡地図、台帳の整備に特に配慮し、分布調査や発掘調査の成果により一段と精度を高めるようにすること。

(2) 発掘調査の円滑な実施が埋蔵文化財保護の基礎となることにかんがみ、専門職員の充実を図るとともに、その資質・技能の向上を図るため、奈良国立文化財研究所への研修派遣、都道府県段階での研修充実等に努めること。

(3) 都道府県及び埋蔵文化財が集中する市においては、発掘調査、出土品処理等の拠点となる公立埋蔵文化財センターの整備を図るとともに、発掘調査を専門に行う財団法人等に委託して迅速適正化を図る等、実情に即した各種の方法について検討すること。

2. 発掘調査の円滑化

埋蔵文化財の保護を図るためには発掘調査の円滑な推進を確保することが不可欠であるが、このためには、教育委員会は、各種の事業の計画や実情を十分了知し、貴重な文化財の保護について事業者や住民によく説明し、その理解と協力を得ることが大切である。教育委員会におかれては、次の措置に留意し、引き続き発掘調査の円滑化に一層の努力を払われたい。

(1) 教育委員会以外の関係部局との連絡を密にし、各々の部局に関係する事業の状況の把握に努め、事前に調整するように努めること。

(2) 都道府県教育委員会は、市町村教育委員会、発掘調査を専門に行う財団法人等と連絡を密にし、当面する発掘調査上の問題について積極的に実情を把握し、その円滑化のため適切な指導を行うよう努めること。

(3) 事業者との事前協議に当っては、事業の計画や実情について十分了知するとともに、埋蔵文化財の保護についてよく説明して理解と協力を得るように努め、また、試掘調査の活用その他最近の方法によりできる限り速く遺跡の性格範囲を的確に把握して、遺跡の取扱いや発掘調査の進め方について円満な調整が行なわれるよう努力すること。

(4) 発掘調査に当っては、試掘調査の活用、機械力や写真測量等最近技術の適切な導入、発掘方法の改善等により、その迅速適正化を図るよう努めること。

(5) 経費の負担や調査期間が長期（例えば、一つの遺跡について6ケ月を超える場合）にわたる等の理由で、発掘調査に関し、事業者との調整が円滑にいかない事案が生じた場合には、速やかに文化庁に連絡し、協力してその早期

解決に努力すること。

(6) 工事中に予想しなかった新たな遺跡が発見され、当該遺跡の取扱いについて事業者との調整が円滑にいかない場合には、専門職員の立合い等により、調査に支障のないように工事を継続させるとともに、速やかに文化庁に連絡し、協力して調整するよう努めること。

3. 発掘調査の成果の活用

発掘調査の成果を活用して我が国の歴史や文化の理解に資する事業は、埋蔵文化財についての理解を深め、発掘調査等の文化財保護の施策について協力を得やすくする上で重要な役割を果たすものであることを認識し、次のような措置の充実に配慮されたい。

(1) 発掘調査の成果については、考古学等の学問研究の資料として活用するほか、わかりやすい印刷物や映像にまとめて、学校教育、社会教育の場での活用を図るようにすること。

(2) 貴重な出土遺物については、博物館、歴史民俗資料館等で保存展示し、その公開活用を図るとともに、理解しやすい説明資料等の作成に努めること。

(3) 史跡に指定して後世に残すこととされた重要な遺跡については、史跡としての整備を図ることはもとより、都市計画等、広く地域住民の利用に供する方策の検討に積極的に取り組むよう努力すること。

〔付2〕三重県埋蔵文化財認定通知物件

三重県 文書番号	三重県 日付	物件名	出土地	出土年月日	発見者	土地所有者	保管場所
教文第52号	56. 2. 9	銅鏡3面、銅鏃3点、砥石2点、瑠璃玉36点 鉄器斧2点、打鍬1点、鎌3点、鏃65点、鉋4点、剣5点、刀子5点、直刀3点、鎗2点、鏃破片45点、甲冑片2箱、不明品2点 須恵器杯身3点、杯蓋2点、鉢1点、甕1点、高杯2点、同杯部1点、有蓋台付壺1点、広口壺1点 人物埴輪部分 4点 馬形埴輪部分 2点 円筒埴輪基部52点 円筒埴輪片 21箱 土器類破片 2箱	松阪市八重田町向之山 松阪市藤之木町	56. 1.24	松阪市教育委員会	高橋不動産㈱	松阪市教育委員会
教文第153号	56. 4. 9	須恵器高杯1点	度会郡度会町葛原	56. 2.25	個人	個人	度会町中央公民館
教文第102号	56. 3. 9	須恵器杯身4点、杯蓋4点、長頸壺3点、広口壺2点、甕1点	鈴鹿市小田町字宮上首	56. 2.20	個人	個人	
教文第229号	56. 5. 8	石鏃2点、鉄片1点、陶片、土器片数片	員弁郡大安町大字小谷口	56. 4.10	個人	個人	大安町教育委員会
教文第300号	56. 5.26	銅鏡2点、馬鈴1点、銅製品片少量、鏡板2点、杏葉12点、雲珠1点、辻金具8点、轡1点、鐙1点、直刀11点、刀子5点、矛1点、鉄鏃200点、 銀製中空玉5点、金環4点、銅環1点、ガラス玉類多量、金属器片少量、須恵器器台8点、脚付壺1点、壺9点、甕1点、提瓶1点、甕2点、高杯19点、同蓋16点 杯蓋10点、杯身10点、土師器高杯1点、壺1点 須恵器、土師器片3箱	亀山市井田川町	56. 5.21	三重県教育委員会	三重県住宅供給公社	三重県教育委員会
教文第358号	56. 6.24	須恵器、土師器20箱、鉄器、青銅器5箱、石器、玉類5箱	名張市赤目町星川字尻矢	56. 5.15	名張市教育委員会	丸栄建設㈱	名張市教育委員会
教文第474号	56. 8.11	縄文早期土器片521点 縄文前期土器片 1点 弥生式土器片 1点 石斧3点、石鏃 7点	尾鷲市大字向井	56. 7.20	尾鷲市教育委員会	三重県	尾鷲市立中央公民館郷土室
教文第604号	56.11. 2	土師器、須恵器、灰釉陶器山茶椀、土馬、瓦片 } 20箱	四日市市大字羽津甲字北岡山	56.10. 2	四日市市教育委員会	個人	四日市市立郷土資料館
教文第29号	57. 1.22	土師器片9点、須恵器片2点 石錘1点、スクレーパー2点	北牟婁郡海山町大字知浦字生熊	56.12. 8	個人	不詳	海山町郷土資料館

〔付３〕埋蔵文化財担当業務

担当業務		業務の内容
開発事業との事前協議	民間事業	建築許可等に関する幹事会に基づく協議 宅地開発事業の基準に関する条例に基づく協議・確認審査 ゴルフ場等の開発事業に関する指導要綱に基づく協議・確認審査 大規模土地取引等に関する事前指導要綱に基づく協議 都市計画法に基づく協議・確認審査 工場立地法に基づく特定工場の届出に関する協議 林地開発行為許可申請に基づく協議 市町村における開発協議についての指導・助言
	公共事業	県営ほ場整備事業等各種農業基盤整備事業に伴う協議 広域農道等各種農道改良事業に伴う協議 広域林道等各種林道改良事業に伴う協議 農村工業導入法に基づく協議 国・県道等各種道路改良事業に伴う協議 国・県管理河川改良事業に伴う協議 市町村総合計画等の事前審査 市町村の公共事業における埋蔵文化財保護に関する指導助言
連絡会議	県内	三重県文化財保護連絡会議 （庁内・公社等開発関係各課長） 文化財保護連絡会 （各教育事務所管内市町村・県各部関係出先機関担当者） 埋蔵文化財担当者会議（各市町専任係）
	県外	東海三重県埋蔵文化財担当者会議 近畿７府県技師会
事務処理	進達・伝達申請等	発掘届出書の処理 発掘通知書の処理 遺跡発見届出書および通知書の処理 埋蔵文化財認定・譲与願等の処理 発掘調査に関する補助金申請・交付事務 埋蔵文化財行政調査等の処理 埋蔵文化財経理事務
文化財パトロール	処置	巡回報告の処理 現地立会等による緊急協議 関係市町村への連絡協議

担当業務		業務の内容
緊急調査	県教育委員会直営	各種公共事業関係緊急・計画分布調査 各種事前協議に伴う現地立会調査 発掘調査に関する計画立案事務 県営ほ場整備事業地緊急発掘調査 国・県道等道路改良工事計画地発掘調査 国・県管理河川改修工事計画地発掘調査 斎宮跡発掘調査 重要遺跡確認、緊急発掘調査
	市町村教委等	発掘調査に関する計画立案等の指導助言 発掘調査の担当者派遣 発掘調査の指導・助言・協力 分布調査の指導・助言・協力
	報告書作成	県教育委員会直営調査報告書作成 市町村教委調査、担当者派遣分報告書作成 市町村教委調査、報告書作成指導・助言
普及・公開	部外協力	各出版物遺跡写真掲載許可 保管出土品写真撮影許可 各展覧会等への保管出土品展示許可 各展覧会展示指導・協力
	研修	埋蔵文化財調査技術者研修 （県内研修会・県外派遣）
	講演	講演会講師派遣・斡旋 発掘調査遺跡現地説明会の開催
資料等の整理保管	整備	新発見遺跡の遺跡台帳追加整理 三重県埋蔵文化財展の開催 新発見遺跡の遺跡地図追加整理
	出土品	出土品洗浄・註記・接合・修復・復元 特殊遺物の保存処理・保管
	図面	遺跡・遺物実測図面整理 遺跡・遺物写真整理
	資料	県内外関係図書資料整理 開発協議資料の整理

三重県教育委員会

文化課	津市広明町13　三重県庁内7階 TEL 0592-24-2986～2988
埋蔵文化財整理所 （通称文化課分室）	津市桜橋2丁目 TEL 0592-27-2465
斎宮跡調査事務所	多気郡明和町斎宮 TEL 05965-2-1732
埋蔵文化財上野整理所	上野市丸の内117 TEL 0595-24-0079